

# 岸川椿蔵書 目録

佐久間 大輔



# 岸川椿蔵書 目録





## 目次 (Contents)

1. 岸川椿蔵書について .....	1
2. 近世日本の椿園芸 .....	2
2.1 資料解説 .....	3
2.2 その他、近世・近代の邦文資料 .....	23
2.3 椿関連の浮世絵 .....	24
2.4 戦後に復刻された古典文献 .....	25
3. ヨーロッパにもたらされた椿 .....	26
3.1 資料解説 .....	27
3.2 その他19世紀の欧米主要椿関連資料 .....	59
3.3 20世紀初頭の主要ツバキ関連書籍 .....	60
4. 戦後椿ブーム以降の書籍 .....	61
4.1 戦後の重要復刻書籍（海外） .....	62
4.2 戦後椿ブーム（1940年代）で発行された専門書（洋書） .....	64
4.3 その他のツバキ関連現代洋書 .....	67
5. ツバキ関連現代和書 .....	70
6. 椿研究会・同好会・学会の会報 .....	74
7. 岸川氏が復刻した文献・資料 .....	76



## 岸川椿蔵書について

「岸川椿蔵書」は東大阪市の故 岸川慎一郎氏によって精力的に収集されたツバキ関連文献です。岸川氏は医師として地域に貢献する傍ら、古典椿の探求に心血を注いでこられました。岸川氏自身の弁によれば「1995年頃に戦後の欧米のつばき関連図書を探求する事によって始まり」とのことですが、それ以前に1960年代から、ツバキ園芸品種の育成を行い、最盛期には600品種以上を維持していたとのこと。こうした様々な品種への興味、ツバキへの愛情が古典書籍への探求に向けられた結果、20年余りの間に2050冊の質・量共に充実したコレクションとなりました。「岸川椿蔵書」の名を冠したこのコレクションを基礎に、岸川氏は和洋の古典18冊を復刻し、国際椿協会から会長表彰を受けています。また、これらの資料を研究し、日本の古典品種の解明、西洋系品種との関連を探るなど、岸川氏と日本のツバキ研究者たちの精力的な活動の基礎となりました。

岸川椿蔵書には①中世～近世のツバキ園芸関連の図譜や本草書、②18～19世紀のヨーロッパのツバキ関連図譜、③戦後ツバキブームの際に復刻、発行された園芸書、④国内外のツバキ同好会、研究会会報などが含まれています。

ツバキ属の野生種は日本には5種しかありません。中国南部を中心に120種が知られていますが、日本の古典園芸品種はヤブツバキ、ユキツバキ、サザンカを母種として発展をしてきました。西洋に渡っても日本から持ち込まれたつばき園芸品種は注目を受け、さらなる品種を生み出しました。岸川椿蔵書は、こうしたツバキ園芸の流れを概観できるものです。

このように、単なる稀覯本・美術品としてだけでなく、研究対象としての興味によって収集された「岸川椿蔵書」は日本とヨーロッパ、そしてアメリカでのツバキに関する園芸史・植物学史・博物学上のコレクションと言えます。2008年岸川氏は「ツバキ古文獻年代史 Camellia old literature generation history」を副題「岸川椿蔵書目録」として刊行しています。海外文献だけでなく和書にも英語の解説を付けたこの書籍によって、「岸川椿蔵書」(“Kishikawa Camellia Book Collection”)は国際的に知られるようになりました。

この岸川椿蔵書の大阪市立自然史博物館へのご寄贈を、打診頂いたのは2014年秋でした。当初は岸川家に近い東大阪市に立地する大阪府立中央図書館への寄贈を検討していたところ、専門的な活用が必要な図書であると判断された司書の方から自然史博物館へ照会があり、実現に至ったものでした。歴史系博物館も収蔵候補として検討されたものの、古美術品や文化史資料としての性格よりも、植物学および園芸学に関わる科学的資料という側面が強いと考え、当館のほうがふさわしいという判断となりました。「岸川椿蔵書」として一体的な資料群として、植物学的な活用が可能であり、植物文化史資料として保管・活用が可能と評価されたのでした。

大阪市立自然史博物館には岸川椿蔵書の他に近世の本草資料を研究した磯野直秀文庫が収蔵されており、また畔田翠山さく葉資料などの本草資料も所蔵しています。岸川椿文庫が加わったことで植物文化史の一大資料群として活用することができるようになりました。

現在、岸川椿文庫のうち、戦後の書籍と研究会誌・同好会誌は植物学の文献と共に「書庫」に、17世紀～19世紀の貴重書・稀覯本を含む洋書・和書のコレクションは、温湿度管理された「特別収蔵庫」で保管されています。

研究利用の際には植物研究室まで予めお問い合わせください。



岸川 慎一郎氏 1930-2020  
(コーベ・カメラ・ソサイエティ名誉会長)



## 近世日本の椿園芸

江戸時代の日本は世界でも指折りの園芸大国でした。江戸にも大坂にも、植木の市が立ち、染井や山本などの生産地が興隆します。中でも江戸時代前期はツバキやサクラなど、樹木が中心で、草花はキクなどごく一部でした。サクラソウやアサガオなどの草花が発達するのは江戸後期になってからです。

17世紀前半にはツバキの品種は100種以上にのぼっていたことが文献などから確認されています。1681年に成立した花壇綱目にもツバキの品種65種が掲載され、1700年頃と見られる宮内庁所蔵の椿花図譜には720品種が掲載されています。さらに、江戸中期には斑入りの品種や、葉の変形した「変わり葉椿」なども数多く加わり、多様な園芸品種が知られるようになりました。

これらの古典品種の中には既に失われたり、わからなくなっているものも少なくありません。乱立する品種を整理するための「名寄せ帖」も何度も発行されています。こうした資料や図譜を頼りに、品種を確定させる園芸史上の研究がなされております。岸川氏は、栽培家としても様々な品種を収集しており、品種の来歴や実態を追求しておりました。これら古典品種を描いた資料から情報を収集し、整理して保存に努めその成果は『古文書に見る日本のツバキ文化史』（1999渡邊光夫氏と共著、日本ツバキ協会記念誌）、『江戸椿大系：江戸期椿のデータベース』（2007年、渡邊光夫氏との共著 コーベ・カメラリア・ソサイエティ会員配布）にまとめられ、最終的には『椿古文書年代史』（2008年岸川氏による個人出版）につながっています。

江戸時代の園芸ブームは「華やかな文化」であるとされ、これを取り締まるために園芸書自体も発禁処分とされたものも少なくなく、稀覯本となっているものもあります。岸川氏らは自ら収集するだけでなく、渡邊氏とともに国立国会図書館や東京都立図書館などの所蔵文献を含め、丹念な調査を行い、また国内外の研究家のために複製公開を進めました。

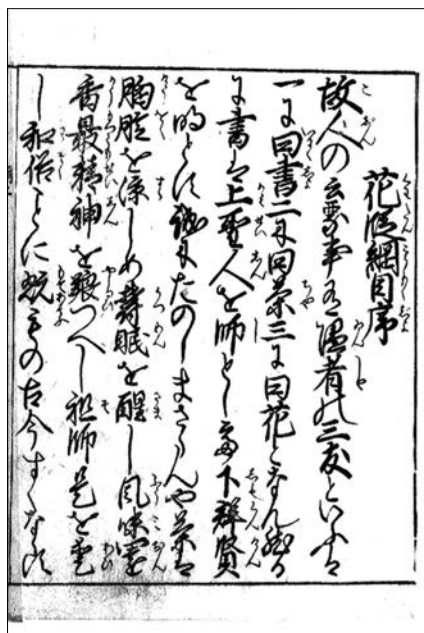
---

注) 岸川椿蔵書は海外の注目も集めているため、表題だけでも英文で読みを付しました。和書の読みは定まっておらず、文献によっても異なりますが、ここではなるべく岸川慎一郎氏の用いた読みに従いました。また、発行年などの情報、見解は岸川氏が各種の出版物に示したものにできるだけ従っています。

引用した多くの文献は現在入手不可能です。また『カメラリアン』はコーベ・カメラリア・ソサイエティ、『椿』は日本椿協会の刊行物になります。

花壇綱目 上中下  
(KADAN-KOUMOKU)

合本 水野元勝 [著] 松井頼母 [増補] 1681年刊 (天和元年) 享保元年 柏原屋与左衛門板 判型: 228mm × 160mm



日本最初の園芸学刊行物。ツバキは65種掲載され、花形の記載がある。水野は大阪の人で関西の品種が記されている。性状と栽培法が書かれる。

故 安藤芳顕氏 (元国際ツバキ協会副会長) 旧蔵。

岸川氏と渡邊光夫氏により『椿古図譜復刻シリーズ7』として復刻された。

椿花図譜百図  
CHINKA-ZUFU-HYAKUZU

作者不明 1700年前後の作と考えられている 判型：302×210mm



外形(布張り、画帳形式)



日本画の技法で描かれた花型



「酒天童子」・「玉藻前」



「白八重山茶花」・「桃色山茶花」

布張表紙の色紙を連ねた画帳形式に花型を品種名とともに100図掲載する。宮内庁蔵『椿花図譜』にのる720図中の100図を写した写本である。このことから1700年前後と推定されている。花はほぼ実物大に描かれ枝葉は省略されている。岸川氏は品種名の伝搬を知る上でも、他の図譜との関連を知る上でも重要資料と考えていた。渡邊光夫氏と岸川氏が刊行した『椿古図譜復刻シリーズ9』に所収。

## 小色紙椿絵

(KO-SHIKISHI-TSUBAKI-E)

作者・製作年代不詳 桐箱入200mm×180mm 内外



桐箱と「たかさぐん」



「松かさ」



「らんけい」



「鷺のみやま」

彩色されたツバキの絵40枚。元は屏風か襖に貼っていたと思われる。絵は椿花図譜に似るが枝葉まで描かれている。実物大ではなく、60%程度。

渡邊光夫氏と岸川氏が刊行した『椿古図譜復刻シリーズ9』に所収。



椿花貼合屏風  
(CHINKA-TENGOU-BYOUUBU)

作者不明 1700年頃 六曲一双、72図の屏風100cm×287cm×2枚



「佛光寺」



「酒天童子」

椿花図譜や小色絵椿絵と画風は共通する。おそらく年代的にも近いと岸川氏は推定している。絵は実物よりかなり小さく30%大。『カメラマン』37号に詳述。

渡邊光夫氏と岸川氏が刊行した『椿古図譜復刻シリーズ9』に所収。

増補地錦抄  
(ZOUHO-JIKIN-SHOU)

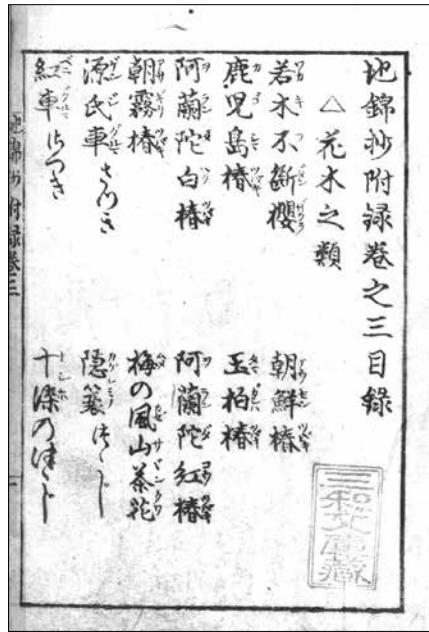
伊藤伊兵衛三之丞・政武父子 1710年(宝永7年) 全八巻だが、六巻を欠く 判型：157mm×110mm



伊藤伊兵衛三之丞の記した『花壇地錦抄』(1695年)に息子正武が補訂、図を付したものの。次の『地錦抄付録』も同様。増補地錦抄に掲載された椿は、花壇地錦抄に掲載された205品種と追加17品種である。岸川編『椿古図譜復刻シリーズ3』に所収。

地錦抄付録  
(JIKIN-SHOU-FUROKU)

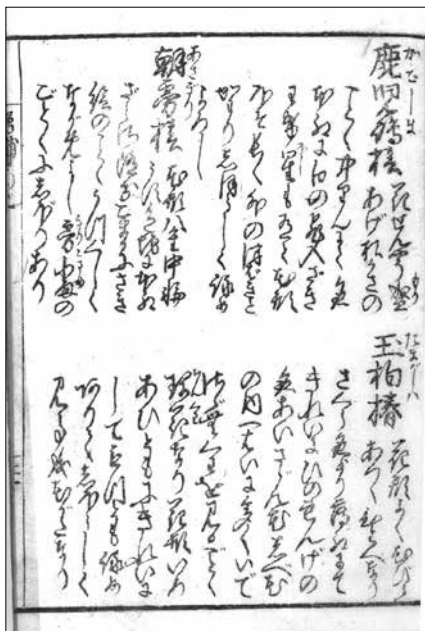
伊藤伊兵衛三之丞・政武父子 1733年 享保18年 須康屋茂兵衛



前項の増補地錦抄の続編。他に『広益地錦抄』がある（岸川文庫には昭和の復刻本のみ）。伊藤親子は江戸染井の住人であり、江戸系のツバキ6品種6図が追加されている。『椿古図譜復刻シリーズ3』所収。

増補花壇大全  
(ZOUHO-KADAN-TAIZEN)

松本新助・河内屋吉兵衛 京都書林 1813年（文化10年）刊 全8冊帙入 判型：155mm×110mm



ツバキは『地錦抄』関連の絵が紹介され、絵のない3種を含め23品種が掲載される。しかし、出版者の松本新助ほか、版元の心齋橋河内屋吉兵衛は地錦抄を書いた伊藤伊兵衛と関係はないようだ。『椿古図譜復刻シリーズ3』所収。

椿花譜・絵巻  
(CHIN-KA-FU E-MAKI)

作者不明 1800年頃と推定 28cm×5.4mの絵巻(桐箱入)



外観



「そめ小袖」・「日野れんげ」



「錦木」・「淡路島」



「なり平」

岸川氏はこの絵巻を「自分の所蔵資料の中で最も重要」と述べている。画風はイラスト、線画調から純日本画風に変化し、江戸後期のような西欧のボタニカルアートの影響はまだない。岸川氏はこのような特徴から江戸中期後半と推定している。『椿花品彙』（奥村繁次郎、国立国会図書館、東京都立中央図書館加賀文庫、京大図書館蔵）の第2部との関連が指摘されている。『カメラマン』37号に詳述。『復刻本シリーズ9』に所収。

椿絵巻  
(TSUBAKI-EMAKI)

作者不詳 1800年頃と推定 31cm × 6.8m



概観



品種名等は記されていない



図版の大きさ、形も不統一になっている



江戸後期の作品と推定されているおそらくはもとは襖絵だったのであろう、丸く、または四角く切り抜かれて巻物に貼られている。絵は前項の絵巻ほど繊細ではない。多様な品種25図が収載されているが、品種名などは記載されていない。園芸史的な興味ではなく、図案として編纂された絵巻なのだろうか。

草木錦葉集  
(SOUMOKU-KIN-YOU-SHYU)

水野忠暁 1829 (文政12年) 江戸東都書林 判型266mm×181mm 全7冊



日本の園芸文化の特色の一つに「斑入り」などを珍重する点が挙げられる。本書にはツバキの87品種が掲載される。江戸時代に加熱したブームを受けこうした品種カタログはしばしば発禁になっており、本書もその一つであり、大変な稀観本になっている。

『椿古図譜復刻シリーズ1』として岸川氏と渡邊光夫氏により復刻。

草木奇品家雅見  
(SOUMOKU-KIHIN-KAGAMI)

繁亭金太 1827年（文政10年）判型：266mm×182mm 3冊帙入



差し木栽培の様子が示される



斑入り葉などを中心とした奇品500種を集めたもの。世界的にもこの時代に類を見ない園芸書とされる。華やかな文化とされ、天保の改革で禁書となり、稀覯本となった。

金太は江戸の植木屋であり、江戸周辺の品種を中心に掲載している。ツバキは斑入り葉や変わり葉の品種27種が載る。

『椿古図譜復刻シリーズ1』として椿部分のみ、のちに全体を復刻している。



椿名寄色付  
(TSUBAKI-NAYOSE-IROTSUKI)

著者については巢鴨村宇左衛門の記述あり 1850年頃 判型139mm×180mm、帙入



121品種の名が載る。『つばき名よせ帖』(国立国会図書館蔵、白井光太郎旧蔵)、『椿名寄色付』(東京都立中央図書館加賀文庫所蔵)との関連が推定される。かな使いなどに違いがある。岸川氏は国会図書館蔵からの写本と推定していた。岸川氏は重要資料に指定。『椿古図譜復刻シリーズ7』所収。

草花諸木花銘録 椿版  
 (SOUKA-SHOMOKU-KAMEIROKU)

作者不詳 1840年頃と推定 天地人三部が一冊に合本 判型：235mm×168mm



桜に続き椿の品種名が並ぶ



一部破損が見られる

56品種が掲載されている名寄せ写本。八代田貫一郎氏所蔵の1884年（弘化元年）『草木便覧』などと同じ祖本からの写本と推定されている。八代田氏はKew植物園で学び、大正から昭和にかけて活躍した植物学者。『カメラマン』33号に詳述。

岸川氏と渡邊光夫氏により『椿古図譜復刻シリーズ7』として復刻された。

椿品類銘寄セ色付 写本  
(TSUBAKI-HINRUI-NA-YOSE-IROTSUKE)

鶴田義賢写 1860年頃と推定 判型：345mm×121mm



型ごとに品種名が並ぶ



いろは順に特徴が記される

246品種掲載、うち230品種がいろは順で、さらに追加16品種（花物、葉形の新品種）が掲載。鶴田義賢は青山に住んだ江戸期の百合の愛好家とされる。本書は林業試験場矢野宗幹氏旧蔵のもの。各種の名寄本をまとめ、データ化したものが『カメリアン』46号に、渡邊光夫・岸川両氏によってまとめられている。さらに、『椿古図譜復刻シリーズ7』として復刻された。

百種椿之記  
(HYAKUSYU-TSUBAKINOKI)

浅野景秀 1851年（嘉永4年）手書筆写 判型：244mm×176mm



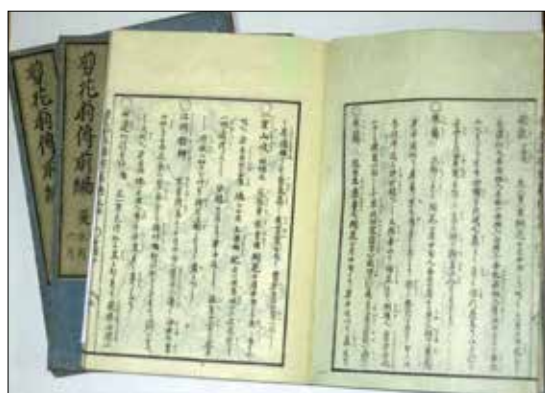
岸和田藩の岡部頼母（ともも）所蔵の百品の椿花画を拝見し、その形を略記した、とある。特徴を記した略図60図がつけられ、部分的に彩色される。雄蕊だけの特徴が記されたものもある。7割が宮内庁『椿花図譜』の花名と一致、多くが花型も一致。

剪花翁伝前編  
(SENKAUDEN-ZENPEN)

中山雄平 著、松川半山 画 1851年（嘉永4年）刊 判型：252mm×178mm



「正月」を欠く4冊



水竹亭蔵版 岸川蔵書には全5冊中、正月を欠き、巻2-5（春三月・夏四五月・秋七八九月・冬十十一月）を所蔵される。「肥後椿」が初めて登場する。

## 大和本草 (YAMATO-HONZOU)



貝原益軒により1709年（宝永7年）刊行された。内容は中国からの知識輸入である本草綱目を越え、詳細になる。日本の植物を記述する博物学を確立した書と言われる。岸川コレクションは三、四、五巻を欠いている。

## 草木育種 (SOUMOKU-SODATEGUSA)



岩崎灌園（常正）による、上下2冊組。1818年、1837年（文化15、天保8）に刊行。岩崎灌園は『本草図譜』の筆者であり、飯沼慾斎と双璧をなす幕末の本草学者。上巻に肥料や接ぎ木など全般的な事柄を解説し、下巻はイロハ順にそれぞれの植物について記し。ツバキ、サザンカも載る。『カメリアン』32号に詳述。

秘伝花鏡  
(HIDEN-KAKYOU)

陳扶揺著、1830年（元保元年）花説堂刊、重刻（平賀校正）帙入り



秘傳花鏡卷之三目次

花木類攷	松	栢
梓	梅 附譜	牡丹 附譜
山茶 附譜	蠟梅	
結香	瑞香	
櫻桃	迎春花	
杏花	玉蘭	
	丁香	

諸色茶花

盛而樹久以冬青接十不活一二

附山茶釋名 共十九種

瑪瑙茶	產溫州紅黃白鶴頂紅大紅蓮瓣中心
寶珠茶	粉房心大紅盤發銀紅魚尾白寶珠九月開甚
楊妃茶	早採紅色 正宮粉 賽宮粉 花青粉
石榴茶	中有 梅榴茶 青微而 真珠茶 淡紅
菜榴茶	有類山 躑躅茶 如杜鵑 串珠茶 亦粉
蟹口茶	花到昔 茉莉茶 開久而繁亦畏寒

荆襄者爲上今南浙亦盛其本宜過枝不宜接換

山茶 ツバキ

山茶一名鼻陀羅樹高者一二丈低者二三尺枝幹交加葉似木樨潤厚而尖長而深綠光滑背淺綠經冬不凋以葉類茶故得茶名花之名色甚多姑列於後其開最久自十月開至二月方歇性喜陰燥不宜大肥春間臘月皆可移栽四季花寄枝宜用本體黃花香寄枝宜用茶體若用山茶體花仍紅色白花寄枝同上唇口花唇口花宜子種以單葉接千葉則花

ツバキは「山茶」と表記されている

# 草木保育剪伐法

(SOUOKU-HOIKU-SENBATSUHOU)

中山雄平、1893（明治28年）寧靜館から出版 判型：220mm×155mm 2巻組



岸川氏が調査のため残したふせん。（保存のため後に除去）



和本ではあるが、「実験真伝」の副題が明治期を感じさせる実用書である。『剪花翁伝』と同じ、中山雄平の著作。安藤芳顕氏旧蔵。



写真花鳥図会全  
(SHASHIN-KACHOU-ZUE)



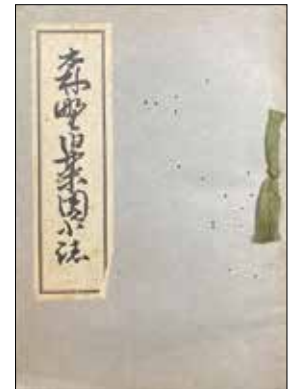
北尾重政による1827年（文政10年）の著作。3冊が帙入りで保管される。国会図書館版（全6巻）と比較すると最初1冊と最後の2冊にあたる。このため、下巻に載る「椿に黄鶺鴒」は収載されているが、欠落した巻に載る「山茶花に紅雀」を欠いている。判型は222mm×158mm

草木画譜  
(SOUMOKU-GAFU)



「岳嵩定岡」1863年（文久3年）と岸川氏のリストにある。おそらくは幕末の浮世絵師「岳亭定岡」と思われる。図案集。ツバキの絵一枚がある。170mm×120mmの小冊子。旧蔵者だろうか、貴志庄三郎の名がある。前項の図会と同様一般への椿園芸の浸透を示す。

その他、近世・近代の邦文資料



明治以降、西欧の植物学・園芸学とともに種苗の流入がみられるが、岸川椿蔵書には国内の植物学関連文献などは含まれておらず、この時代の書籍は少ない。見られるのは古典園芸書の復刊されたものである。古典園芸品種に注目した岸川氏の視線を感じる部分でもある。

後述のように、20世紀初頭は欧米においても椿園芸の停滞期であった。国内においても同様だったのだろうか。このあたりは三田育種場の資料を含んでいる『磯野文庫』など関連資料で補っていく必要があるだろう。

書名	編著者	出版社	発行年（復刻年）	備考
森野旧薬園小誌	森野旧薬園保存会	森野旧薬園保存会	1850 頃（1932）	
倭漢三才圖會	寺嶋了安	吉川弘文館	1906	
続群書類従 第三十二輯、 三十三輯	塙保己一、補・太田藤四郎	続群書類従完成会	1630（1926, 1928）	『策伝』、『百椿集』など
花壇綱目	水野元勝	京都園芸倶楽部	1681（1932）	3巻
菜譜	貝原益軒	京都園芸倶楽部	1704（1933）	上中下の復刻
花譜	貝原益軒	京都園芸倶楽部	1694（1937）	上中下の復刻
本草啓蒙補遺	黒田楽善	厚生閣	1939（1944）	

椿関連の浮世絵



小原古邨「椿と鳥」



魚屋北溪「八重赤覆輪」



溪斎英泉「山茶花と鳥」



安藤広重「椿とウグイス」



安藤広重「八重紅花多数咲く椿と鳥」

岸川氏は椿関連の浮世絵も数点を所蔵していた。自然史博物館としては椿資料としての価値を重視して受け入れており、これらの作品についての美術品としての価値、来歴については特に調査していない。作家名は岸川コレクションに付されているままである。

- 溪斎 英泉 「山茶花と鳥（花鳥図・短冊）1836（天正7年頃）
- 魚屋 北溪 「八重赤覆輪」
- 安藤広重 「椿と小鳥」「椿とウグイス」「八葉山茶」「レジェンド広重」
- 小原古邨 「椿と鳥」

~~~~~ 戦後に復刻された古典文献 ~~~~~

| 書名                | 著者など                  | 出版社          | 出版年（復刻年）         | 備考                         |
|-------------------|-----------------------|--------------|------------------|----------------------------|
| 草木花写生             | 狩野探幽 北村四郎解説           | 狩野探幽         | 1661-1674 (1977) |                            |
| 花木真写              | 近衛豫楽院                 | 淡交社          | 18C. (1972)      | 江戸中期、写實的、ヒメシヤラが描かれる。陽明文庫蔵  |
| 本草図譜              | 岩崎灌園本の復刻<br>(北村四郎他解説) | 同朋社          | 1820 (1980)      | 豪華本、和本になっている。<br>6 帙に分かれる。 |
| 善多尼訶経             | 宇田川榕菴                 |              | 1822 (1965)      |                            |
| ケンペル、江戸参府旅行日記     | ケンペル, 斉藤信訳            | 東洋文庫、<br>平凡社 | 1728 (1977)      | 底本は次項の日本誌。                 |
| History of Japan* | Kaempfer              | 雄松堂書店        | 1728 (1977)      | History of Japan*          |
| 国書総目録             |                       | 岩波書店         | 1990             |                            |
| 椿花図譜復刻本・宮内庁蔵      | 渡邊武                   | 講談社          | 1969             | 豪華本                        |
| 日本博物学年表（初版）       | 白井光太郎                 | 科学書院         | 1891 (1982)      | 上野益三解題                     |
| 江戸参府随行記           | C.P. ツェンペリー<br>高橋文訳   | 平凡社          | 1994             | 1795 年に書かれ未公表だった           |



『善多尼訶経』



## ヨーロッパにもたらされた椿

江戸時代、日本は鎖国状態でしたが、オランダとの交流は日本の植物に関する膨大な知識をヨーロッパにもたらします。

1823年に来日したシーボルトより130年早く、ドイツ人医師ケンペルは1690年、オランダ東インド会社の医師として来日しました。博物学者として日本の植物の情報をヨーロッパにもたらします。これはカール・リンネがリンネ式分類を提唱し、ヨーロッパの植物学が近代科学として発達をはじめたまさにその時期でした。

そしてリンネの弟子ツェンペリーがオランダの医師として来日し、日本の植物と園芸の情報を、苗木とともにヨーロッパにもたらすのでした。特に、1830年代には「冬のバラ」としてヨーロッパで日本のツバキが大流行しました。こうした流行を背景に、多くの見事な植物画が描かれ、精緻な製版によりたくさんの図譜が主に上流階級向けに発行されています。

欧州、特にイギリスの園芸界において、常緑の植物はまさに南国を思わせる「エキゾチック」な存在でした。ツバキやシャクナゲ、アオキと言った日本の植物は人気を集め、様々な品種が次々に紹介されます。ヨーロッパ博物学の伝統を背景に「カーティス・ボタニカル・マガジン」をはじめ精緻なボタニカル・アートが紙面を彩る数多くの出版物が発行されます。

これらはまた、現代日本に再導入された海外の品種を理解する上で、重要な資料にもなっています。岸川氏は、これらの情報を丹念にたどり、必要な資料を入手し、著作権の切れたこれらの図版を日本のツバキ愛好家・研究者たちに提供してきました。

---

注) 書名の邦題および人名の表記は岸川氏の表記を含め各種参考文献に従った。ただし、岸川氏は普及を目的に原題からやや離れた簡易な邦題を用いている場合があったため、その場合は原題を活かした訳を採用した。

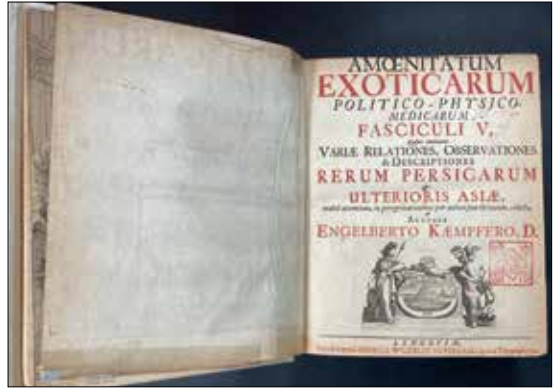
# Amoenitatum exoticarum

(廻国奇観)

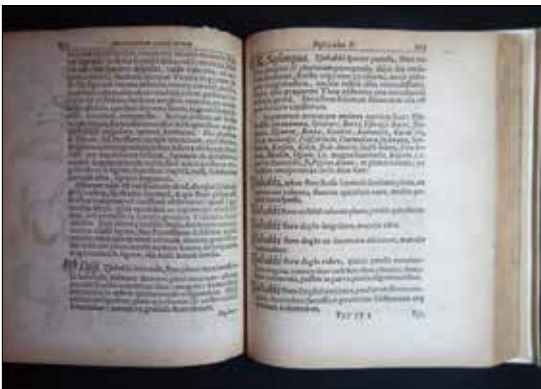
エンゲルベルト・ケンペル (Kaempfer, Engelbert) 1712年 Lemgo: H.W. Meyer から刊行 判型: 273mm × 190mm



小口装飾付き



表紙



チャの解説



椿の記載図

ケンペルはドイツ出身の医師で博物学者。オランダの東インド会社の一員として元禄3年（1690）来日。2度江戸参府し、1692年に離日している。この『廻国奇観』は前半ではペルシャ（現在のイラン）などについての博物学的記述が主だが、第5章で日本の植物を扱っている。リンネはこの記述と絵をもとに、日本のツバキを *Camellia japonica* L. として記載した。ツバキの種の基準となっているのは標本ではなく、この本の図版なのである。ツバキの西欧への伝播に本書は重要な意味を持っている。稀観本。

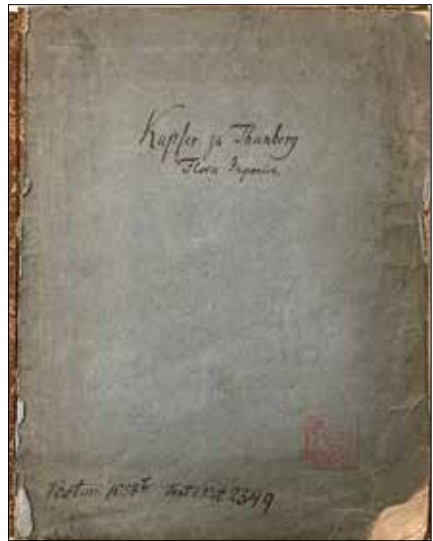
# “Flora Japonica”

(日本植物誌挿絵集)

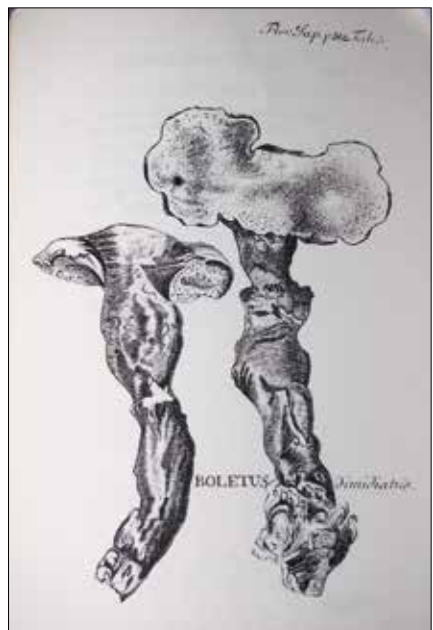
カール・ペーテル・ツェンペリー (Carl Peter Thunberg) 1784年 (部分) 判型：305mm × 235mm 帙入



サザンカの記載図



概観



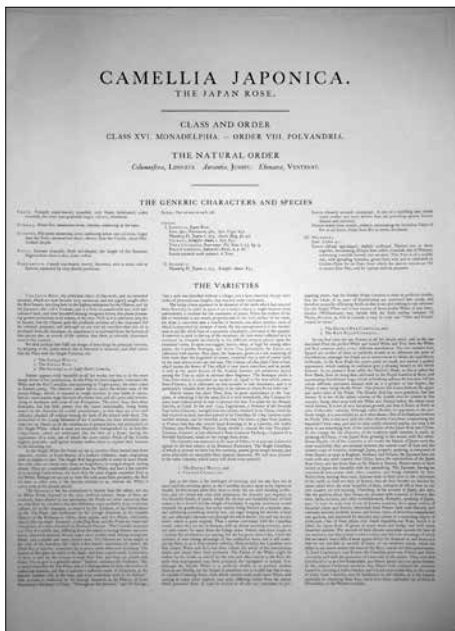
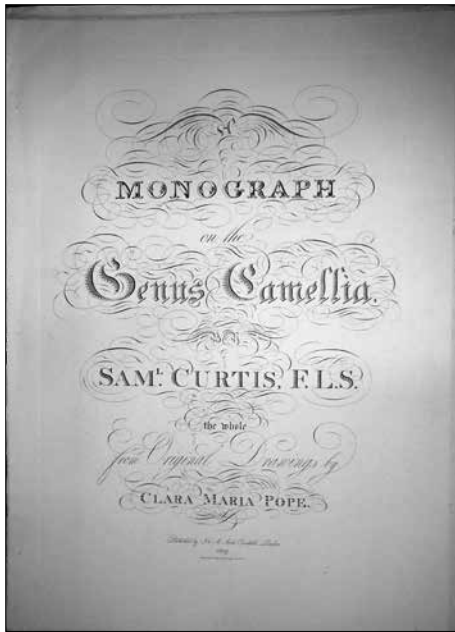
マンネンタケ

ツェンペリーはスウェーデン出身の医師で、植物の学名体系を築いたカール・リンネの弟子の博物学者。東インド会社の医師として来日し、植物標本や本草書をつつめた。これらやケンペルの著書を参考に、日本の植物を初めてリンネ式に分類整理し『日本植物誌』を刊行した。サザンカの学名は *Camellia sasanqua* Thunb. であり、ツェンペリーが定めたもの。この図はその記載図であり、挿絵部分のみが残されたもの。書物全体については岸川氏は戦後の復刻本を所蔵。

# A Monograph on The Genus *Camellia*

(ツバキ属のモノグラフィ)

サミュエル・カーティス (Samuel Curtis) 著、クララ・マリア・ポープ (Clara Maria Pope) 画、1819年刊行、690mm×510mmと大判



サミュエル・カーティス (1779-1860) はカーティス・ボタニカルマガジンを創刊したウィリアム・カーティスの娘婿。エッチングによる銅版画、手彩色の5枚の絵に当時輸入された10種のツバキが描かれる。解説には25種の品種名が掲載される。岸川氏は19世紀4大椿図譜に挙げている。岸川椿蔵書には1965年に作成された複製品が複数所蔵される。複製本だが、重要図譜としてここに示した。



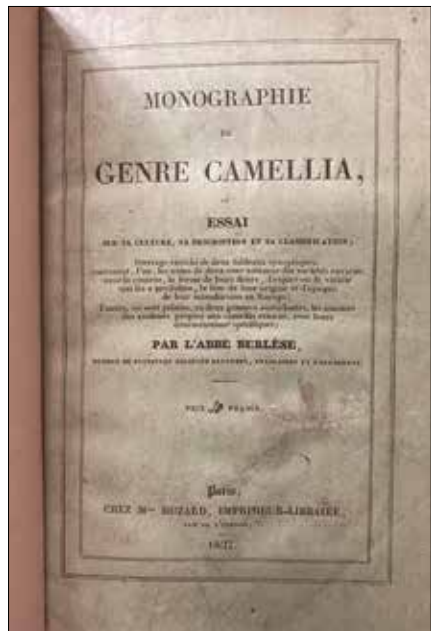
## Monographie du genre Camellia (ed. 1-3)

(ツバキ属の研究 (第1~3版))

アビー・ロレンツォ・ベルリーズ (Abbe Lorenzo Berlèse) 著。1837年, 1840年, 1845年に L.Bouchard-Huzard から刊行。 判型: 216mm × 140mm



'Anemoniforme'



図譜ではなく、ツバキ属の品種を整理、記載したモノグラフ。この本には図版はない。初版に282品種、第2版に508品種、第3版には700の品種が載る。ベルリーズは19世紀最高のツバキ研究者として知られる。19世紀の西洋系品種を概観できる「歴史的な書物」と岸川氏は評していた。仏語版。

## 'Iconographie du genre Camellia'

(椿属の図譜 全3巻)

アビー・ロレンツォ・ベルリーズ (Abbe Lorenzo Berlesè) 著、J.-J. Jungほか画。1841-1843年にかけてH.Cousin, Libraire-Editeur (France)から発行 大型本



'Caselli'



'Pictorum rosea'



'Decora'

アビー・ロレンツォ・ベルリーズ (1784-1863、イタリア生まれ) は、19世紀最高のツバキ研究者として知られる。パリに温室を構え、400品種以上のツバキ園芸品種を分類、体系化した。フランス園芸協会の前身、パリ王立園芸協会の副会長。大型の美しい3巻本。装丁されたもの以外に単独の図版が47枚収集されている。本書は後のツバキ図譜に大きな影響を与え、ヨーロッパ園芸品種のスタンダードを確立した。19世紀の4大ツバキ図譜の一つとされる。和書同様、岸川氏が複製して復刻した。

## Neuve Iconographie des Camellias 7 vols.

(新椿属図譜 全7巻)

アレクサンダー・ベルシャフト (Alexander Verschaffelt)、アンブローズ・ベルシャフト (Ambroise Verschaffelt)  
父子の著。1848-1860年にかけて13巻でベルギー Gand社発行。判型：273mm×190mm



'Grandis'



'Madona'



'Elegans'

19世紀ベルギーの秀でた園芸家であったアンブローズ・ベルシャフト (Ambroise Verschaffelt : 1825-1886) の代表的著作の一つ。ベルシャフトはツバキ、ツツジを特に専門とした。前項のベルリーズの“Iconographie du genre Camellia”の続編として作成されたもの。623品種が載る。19世紀の4大ツバキ図譜の一つに数えられる。岸川椿蔵書には13巻を7巻に合本した全巻揃いととも、切り離されて流通した図版、揃いでない製本版などが多数所蔵されている。岸川氏により複製が作られ頒布された。『カメリアン』41号に詳述。

Illustrations and Descriptions of the Plants which Compose the Natural Order Camellia,  
and of the Varieties of *Camellia japonica*, Cultivated In The Gardens Of Great Britain  
(ツバキ類および英国で栽培されているツバキの変種の図説)

ブース (Booth, W.B.) 著 チャンドラー (Chandler, A) 画 1831年 John and Arthur Arch (Cornhill) 判型: 390mm × 290mm



*Camellia japonica* (原種のヤブツバキ)



'Maliflora'



'Reticulata'

日本のヤブツバキ系のものを中心に40品種の図版と解説が載る。手彩色のリトグラフの見事な図版は、19世紀4大椿図譜の一つと称される。椿がアジアからヨーロッパに渡って100年程度のこの時期、高い人気を得ていたことがわかる。小デュマの『椿姫』が書かれたのは1840年代であり、これら4大図譜の時代と重なる。『アメリカン』49,50号に一部和訳と詳細解説が載る。

全ページを製本した完本は世界的にも希少。これも複製版を岸川氏が制作し頒布。

Illustrations and Descriptions of the Plants which Compose the Natural Order Camellia, and of the Varieties of *Camellia japonica*, Cultivated In The Gardens Of Great Britain. Vol.2 part 1

ブース(Booth,W.B.)著 チャンドラー(Chandler,A)画 1837年 John and Arthur Arch (Cornhill) 390mm×290mm 映入り



'Bealeii'



'Gilesii'

前項の Illustrations and Descriptions of the plants... と同じ著者による続巻。一般には「発行されていなかった」と言われていたが、1942年になって未発行の状態でも Chandler 家の本の間から6部のみ発見されたものの一つ。世界的な稀観本。手彩色、リトグラフ。複製を岸川氏が制作し頒布した。

# Camellia Britannica

(カメリア・ブリタニカ)

チャンドラー (Chandler, A) & バッキンガム (Buckingham), 1825年, Sherwood, Gilbert, & Piper より刊行



'Chandlerii'



'Chandlerii'



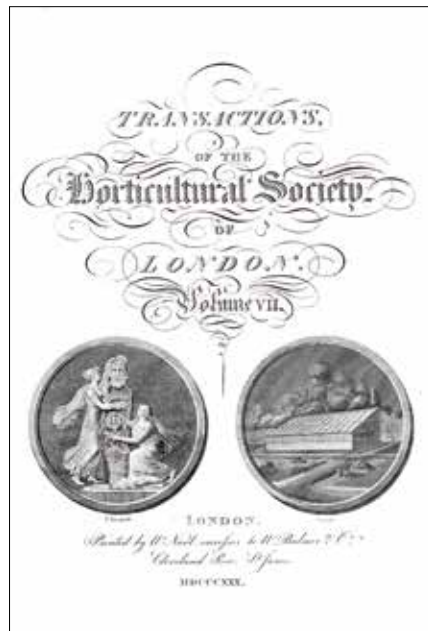
'Atonia'

稀観本。表題は「英国生まれの椿」の意。歴史的に非常に貴重な本。初期（18世期末から19世期初頭にかけて）に英国に輸入され開発された椿の品種の絵が描かれている。岸川氏により復刻頒布された。

# History and Descriptions of the Species of Camellia and Thea

(ツバキ属とチャノキ属の各種の歴史と記載)

William Beattie Booth 1829 Transactions of the Horticultural Society of London 7: 519-562 + 1pl.



[ 519 ]

*L.V. History and Description of the Species of Camellia and Thea; and of the Varieties of the Camellia Japonica that have been imported from China. By Mr. WILLIAM BEATTIE BOOTH, A. L. S. Garden Clerk.*

Read August 18, and September 1, 1829.

Among the various plants which have been introduced into this country, there are few perhaps more interesting or more highly ornamental than those belonging to the two genera of which I have now the honour of presenting an account, to the Horticultural Society. With the exception of the *Camellia Kishi*, which is a native of Nipal, the whole are indigenous to China and the Islands of Japan, where they are held in great estimation, and where their culture is regarded as an object of the utmost importance, particularly that of *Thea*, the leaves of which after undergoing a certain process, are the well known Tea, which constitutes one of the chief articles of our commerce with the East, and the source from which a considerable part of our national revenue is derived. These plants, therefore, cannot but be considered as highly deserving our attention; although they are by no means to be compared with the beautiful varieties of the *Camellia Japonica*, which are universally admired, and which form during the winter, and early spring months, the most attractive ornament of the Greenhouse and Conservatory.

Before I proceed to the description of the species, I may

チャンドラーと共に出版する図版 (26p) に先立ち書かれた1829年の総説論文。カラー図版が1枚つく。日本からもたらされたヤブツバキ起源の品種と中国経由の品種を認識し、区分している。ツバキ研究史上重要な論文。岸川氏はこれをカメリア・ブリタニカと比較し (『椿』45号に報告)、さらに両者を復刻発行している。

Annales de la Société Royale d'Agriculture et de Botanique de Gand : Journal  
d'Horticulture et des Sciences Accessoires.

Société royale d'agriculture et de botanique de Gand. 1845-49 , 253mm × 180mm



装丁された本は小口装飾がなされている



'Halleii'



'Princeps Alberius'



'Marie Morren'

ベルギーの都市 Gand の農業及び植物学会会誌。園芸植物283種の植物画が掲載され、椿についても26品種を収載。全5巻が欠落なく揃っている稀観本。この他に岸川蔵書には単独の絵で流通しているものが4図収載されている。岸川氏により椿絵の図版集が2000年に復刻されている。

図版は Marie Morren が描いたものが最も多く、右下の品種は献名されたもの。



## Bollweilerer Camellien Sammlung

(ボールワイラー地方の椿菟集)

C・パウマン、N・パウマン (Carl A Baumann、Napoléon Baumann) 1835年 Bollweiler 刊343mm × 270mm



'Rubicailis'



'Heterophylla'



'Regina gallicarum'

49枚の椿図譜を収載。ヤブツバキを募集にした Aitonia, Palmeri などの園芸品種が掲載されている。フランス語版もしられるが、この本はドイツ語版。この時代の書籍は何年にも部分的に出版されたものを所蔵者が製本している。このため欠落なく揃った完本は少ない。『カメリアン』48号に詳述。リスト・図版は『椿古文献年代史』にも掲載。

岸川氏所蔵のものをもとにリプリントが作成され頒布された。

Curtis's Botanical Magazine  
(カーティス・ボタニカル・マガジン)

46, Ser.2 Voll,1654, 1670, 2571, 2577, 3148, 5152 Vol2の椿関連合本 復刻本として1787-1904

**Botanical Magazine;**  
OR,  
**FLOWER-GARDEN DISPLAYED:**  
IN WHICH  
The most Ornamental FOREIGN PLANTS, cultivated in the Open Ground, the Green-House, and the Stove, are accurately represented in their natural Colours.  
TO WHICH ARE ADDED,  
Their Names, Class, Order, Generic and Specific Characters, according to the celebrated LAMOUROUS; their Places of Growth, and Times of Flowering;  
Together with the most approved Methods of Culture.  
**A WORK**  
Intended for the Use of such LADIES, GENTLEMEN, and GARDENERS, as wish to become scientifically acquainted with the Plants they cultivate.  
By **JOHN SIMS, M.D.**  
FELLOW OF THE ROYAL AND LINNEAN SOCIETIES.  
VOL. XLVI.  
Being the Fourth of the New Series.  
The Flowers, which grace their native beds,  
As soon as each their budding buds,  
But, ere the show of putting dies,  
They wither, shrivel, and die away;  
But yours, which never shall fade,  
Nor withered by sun, nor killed by shade,  
Shall bloom with new immortal life,  
Which any at pleasure may receive. LAMOUR.  
**LONDON:**  
Printed by W. & S. COCHRAN, Throgmorton-Street.  
Published by SWEENEY, NEELY, & JONES, 20, Paternoster-Row;  
And sold by the principal Booksellers in Great-Britain and Ireland.



'Myrtifolia'



*Camellia japonica*

( 3745 )  
**CAMELLIA JAPONICA, flore simplici, albo.**  
SINGLE WHITE-FLOWERED CAMELLIA,  
OR JAPAN-ROSE.  
\*\*\*\*\*  
Class and Order.  
MONOPETALOUS POLYANDREA.  
( Nat. Ord.—CAMELLIÆ. D. C. )  
Generic Character.  
Caf. imbricatus. Stam. basi polyandrelpha aut monadelph. Antheræ ellipticoides. Capsulae valvis medio septiflexis, axim triseriatis liberatis post delincentiam relinquuntibus. D. C.  
Specific Character and Synonyma.  
*CAMELLIA japonica*: foliis ovatis acuminatis acuto serratis, floribus terminalibus subsolitariis. D. C.  
Var. Flores albo simplici. S. Curtis, *Managr. of Camellias* cum Ic. Bot. Reg. t. 503.  
DESCR. The single white CAMELLIA possesses the same claims to our admiration, as so many of the other varieties of the species, which promises to be as sportive, when raised from seed, as the ROSE themselves. The Plant in question is supposed to be the produce of seed from the striped CAMELLIA, and raised by Mr. ROLLINGS, of Pooleing.  
Our readers are referred to Mr. SAMUEL CURTIS'S work above quoted, for the most splendid figures of the different varieties of CAMELLIA, and for a detailed history of them, with an account of their mode of treatment. That author justly remarks, "that they possess good natural constitutions to bear the variety of treatment they meet with; for they are obliged to submit to all temperatures, from that of the open air, to the heat of the FIRE stove. As to soil they grow best in about one-third of good bog earth, and two-thirds of rich sandy loam."

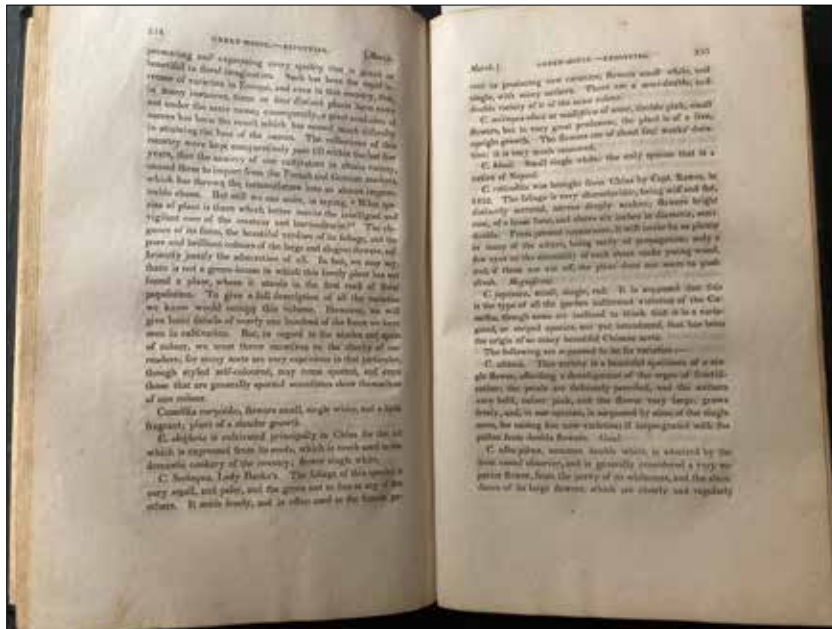
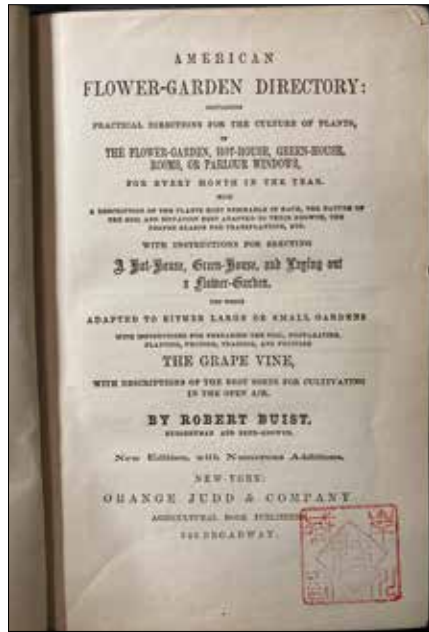
1782年英国キュー王立植物園で働いていたウィリアム・カーティス (William Curtis) が創刊。現在もキュー植物園から発行されている。美しい図版で知られ、シデナム・エドワーズ (Sydenham Edwards)、ワルター・フィッチ (Walter Hood Fitch)、マチルダ・スミス Matilda Smithなどの画家が活躍。

岸川椿蔵書にはツバキの記事・図版を中心にコレクションし、14図版中11図版を蒐集。『カメリアン』46号に図版について詳述。リストは『椿古文献年代史』にも掲載。

# American Flower Garden Directory

## (アメリカ庭園花銘帳)

1st ed. Hibbert & Buist 1834 2nd ed. Robert Buist 1839 4th ed. Robert Buist 1851 6th ed. Robert Buist 1854



版を重ねた19世紀のアメリカの園芸種目録。初版で既にヤブツバキの園芸品種42種について詳述、56品種の簡略解説が載る。第2版~6版には70品種のリストが載る。アメリカでの椿関連定期刊行物としては最初期のもの。ヨーロッパの展開と異なるアメリカでの園芸の発展も岸川氏は追っていた。

The Botanist  
(雑誌「植物家」)



'Donckelarii'



Maund, Benjamin & J.S.Henslow (1837~1842) 全五巻。シーボルトが1830年に久留米から持ち帰った「ツバキ正義」が母種とされる人気品種 Donckelarii が描かれた版画が掲載されている。岸川椿蔵書にはこの絵のみ収蔵。

Practical Camellia Culture: A Treatise on the  
Propagation and Culture of the *Camellia Japonica*  
(実用椿栽培)



R. J. ハリデイ (Rober J. Halliday) 著 (1880) アメリカで出版されたツバキ関連書籍としてはごく初期のもの。172mm×108mmと非常に小さなタイトル通りの本。

# Paxton's Magazine of Botany, and Register of Flowering Plants (Paxton 植物学雑誌)



Joseph Paxton 著1834年から1848年まで Orr and Smith (London) から出版。237mm\*167mm 製本状態悪い。この雑誌には19品種の椿が掲載されるが、岸川椿蔵書は第2巻を所蔵、図版2,+解説文のみのものが1品種のみ収載。Luc Dhaz 氏との交流により『椿古文献年代史』には計8図版が掲載されている。

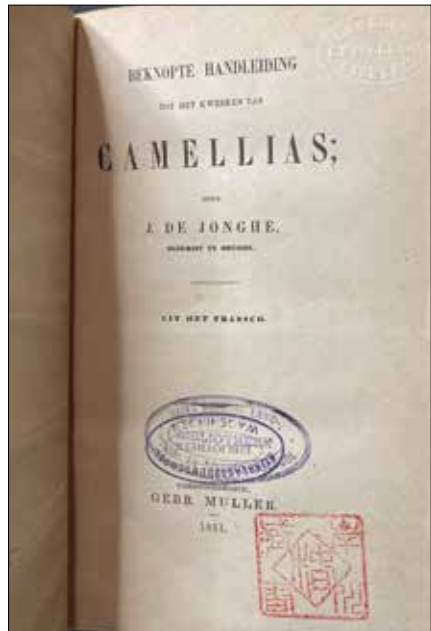
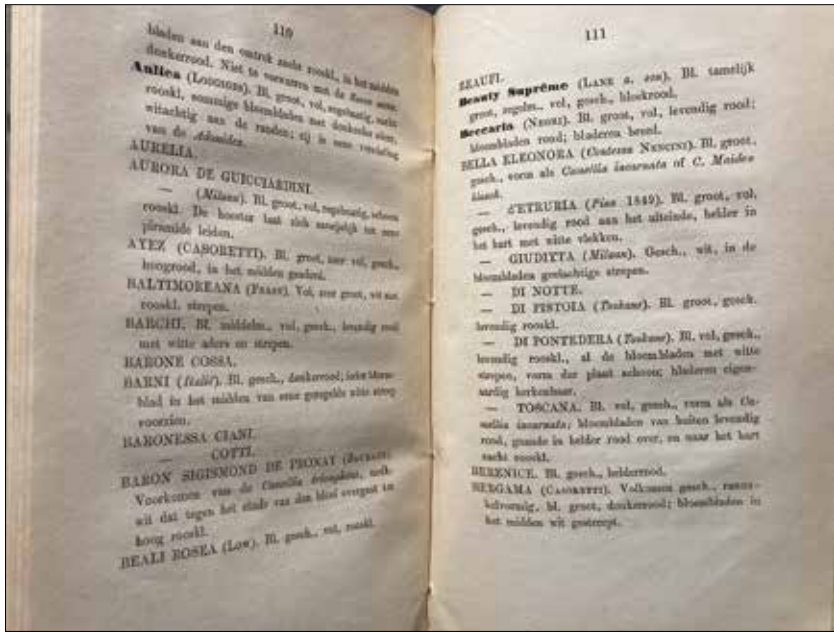
## Popular Flowers (雑誌人気の花)



Robert Tyas Houlston & Stoneman(London)1843-1848  
椿園芸の盛んな時期に、人気の品種を知ることができる。様々な園芸植物が掲載される中、椿の品種は183種が掲載されている。シーボルトがドンケラリー・トライカラー・オクロイカを持ち帰ってわずか3年で掲載されている。『カメリアン』52号にデータが載る。

# Beknopte Handleiding tot het Kweken van Camellias ( 椿栽培の手引 )

J. de Jonghe 著 1851年 Librarie de Deprez-Parent (Bruxelles) から出版 版型：180mm × 120mm



ツバキの民間への普及を思わせる栽培の小型手引書。450を超える品種が掲載される。Traite de La Culture du Camellia と題した仏語版もある。

# Preis-Courant der Warm- und Kalthauspflanzen

(温室植物と観葉植物の取引目録)

Geitner, Gustav 1848 (Germany)



'Grande duchessa d'etruria'



'General Lafayette'

八重咲き5品種のツバキの図版が載っている。  
商品紹介の体裁。





Camellias Aus der Sammlung des Handelsgartners Alfr. Topf in Erfurt  
(取扱業者エアフルトの栽培鉢からの椿)



Carl Hoffmann 著 1865年 Verlagshandlung (Stuttgart) 発行の大型図版。八重咲きの9品種が描かれている。

Choix des Belles Fleurs et plus Beaux Fruits  
(『美花撰』)



*Camellia japonica*

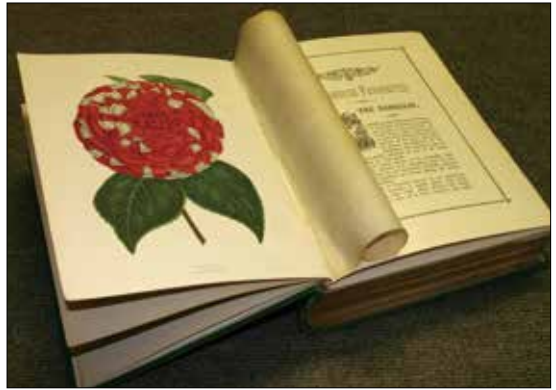


Redoute, P. J. 編1827-1833 (France) 144枚の彩色銅版画、椿は4枚含まれる。ルドゥーテは特に『バラ図譜』の画家として知られる。3枚を所蔵。

## Greenhouse Favorites (温室の愉しみ)

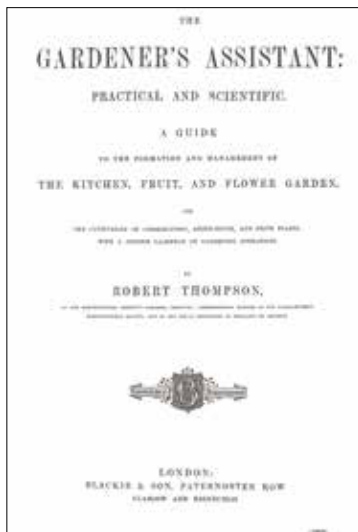


'Giardino-Santarelli'



Hibberd James Shirley 編、1879年 Groobridge and Sons (London) から出版。ツバキの図版は2品種。

## Gardeners Assistant (庭師手引)



'Ausustina superba & Caryophylloides'

Robert Thompson 著 1859年 Blackie & Son (London) から出版。283mm × 182mm とやや大型の園芸書。ツバキは2品種の図版が掲載。

## British Florist (Lady's Journals of Horticulture)



'Pulchella rosea'

H.G. Bohn (LONDON) から1846年出版された園芸雑誌。岸川椿蔵書には6巻組のうちツバキが載る第4巻のみがある。

ツバキは3pにわたり書かれ、1図版がつく。

## Green House Companion

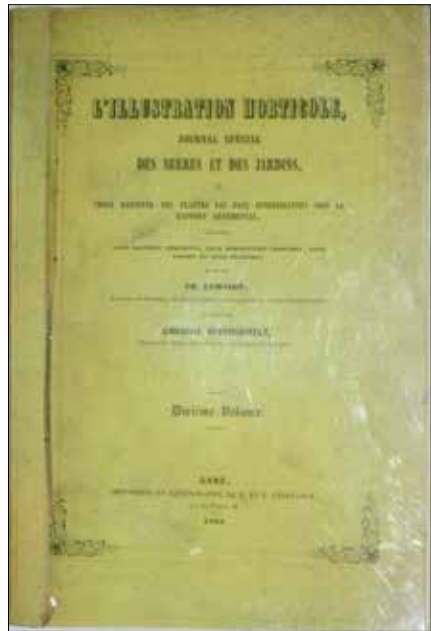


'Waratah' & 'Lady Hume's Blush'

John Claudius Loudonが1824年出版した温室園芸の手引書。19世紀初頭に著名な園芸家として、数多くの園芸書を手掛ける。

# L'Illustration Horticole (園芸図譜)

Ch.Lemaire & A.Verscaffelt Vol.9-16,27-28 単独の絵 (椿のみ10,21,24,32,41, 45,52,67,81,103,119,129,135,145,146,151,158,185,200,473,483,488,509,518,544,554,581,590,596,602,614)



*Camellia alba ornatissima*

ルメール教授が編集、新椿図譜のベルシャフトが発行人になっている雑誌1854年から1896年まで43巻が発行されている。カラー版画で多くの園芸種が紹介され、椿品種64種原種9種が紹介されている。岸川椿蔵書にはほぼ全種が収集されており、不足分もデータとして収集済み。2002年に図版を復刻本として出版。『カメリアン』42号に詳述。

# Floricultural Cabinet (園芸雑誌『花卉園芸の書棚』)

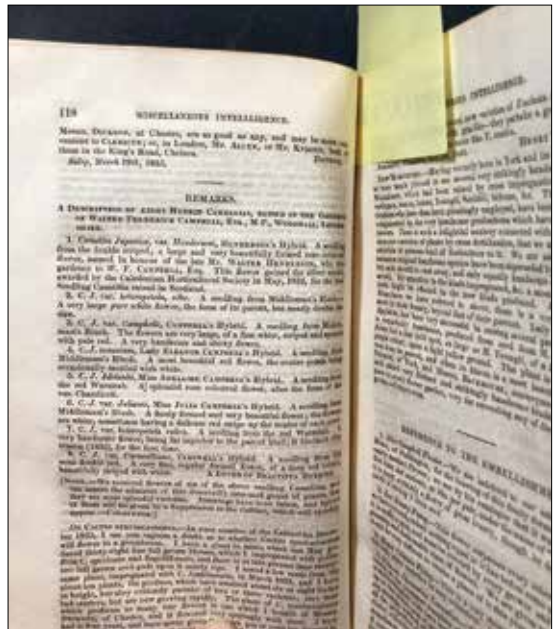
ジョセフ・ハリソン (Joseph Harrison) 編1833-1853年に発行した一般向雑誌。 版型：222mm×140mm  
岸川椿蔵書には1835-38, 42-45, 50, 53の各号と、単独の図譜がいくつか所蔵されている。



‘Albertii’ の図版と記載



革表紙は劣化が進んでいる



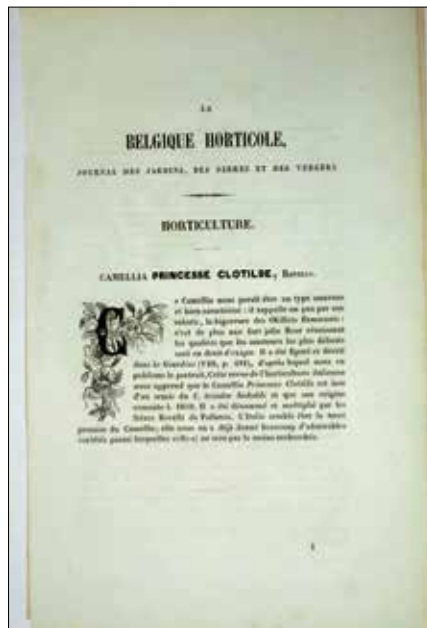
多くの種は解説のみ

椿の図譜8枚と230種の解説が掲載されている。岸川蔵書には椿図譜は全部蒐集されている。『カメラマン』47号、『椿』46号に詳細が掲載されている。

# Flore des Serres et des Jardins de l'Europe

(ヨーロッパの温室と庭園の植物相)

Louis van Houtte Charles Antoine Lemaire (1845-1880) Vol.1-23



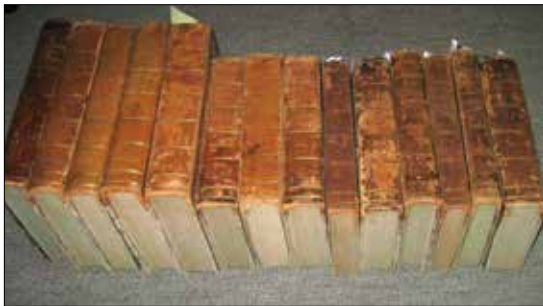
かつて氷期には大部分が氷床に覆われた欧州において、常緑の植物は南国を思わせる憧れの植物になる。椿も、イギリスを始め欧州では温室で維持する植物であった。19世紀の園芸文化を象徴する美しいカラー版画の掲載された雑誌。岸川氏は全42図版のうち、岸川椿蔵書にはVol.19と図版のみで30枚以上を所蔵、合計39品種の図版を所持または写真で所持していた（『椿古文献年代史』に掲載）。

# Revue Horticole: Journal des Jardiniers et Amateurs (園芸学評論)

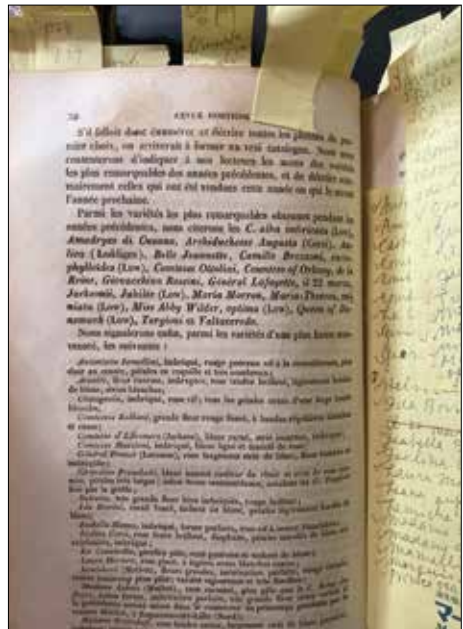
Librairie agricole de la maison rustique から1829-1974年まで発行された論文誌 版型：177mm × 115mm



Archiduchesse



所蔵全巻

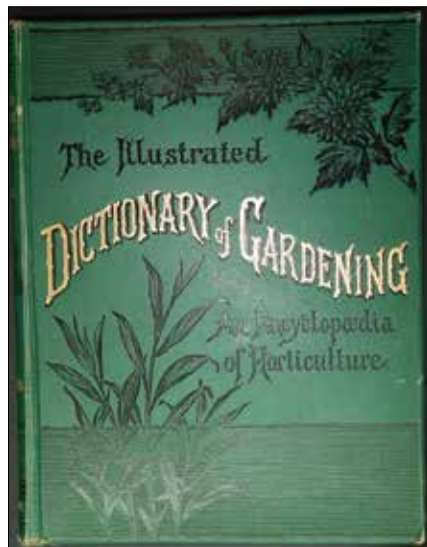
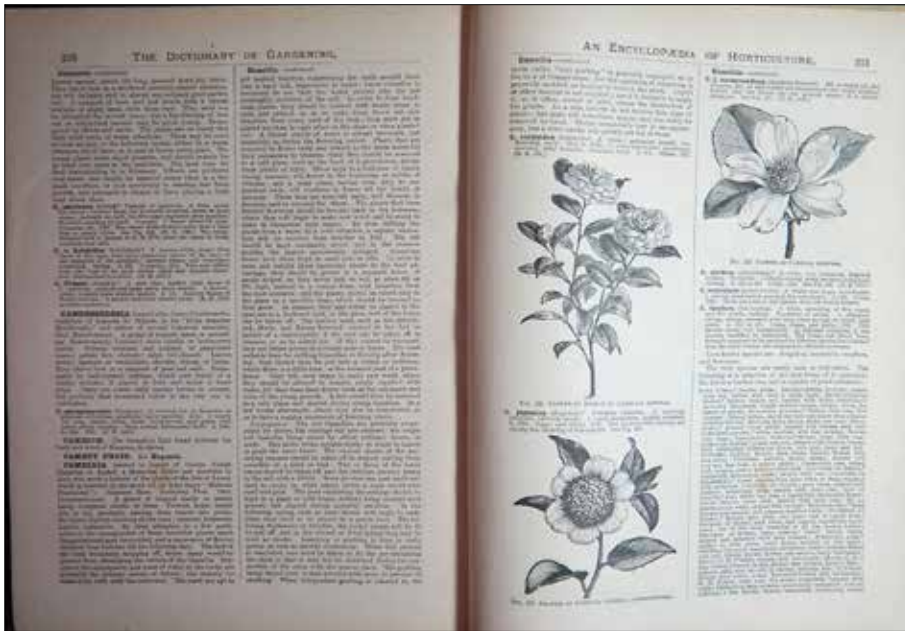


岸川氏のメモがたくさん挟み込まれている。

岸川椿蔵書には1844-56の論文が製本されて所蔵されている。

# The Illustrated Dictionary of Gardening, 12 Vols (絵解き園芸辞典)

ジョージ・ニコルソン (Nicholson, George) 1884年 L.Upcott Gill, (London) 版型：263mm×200mm

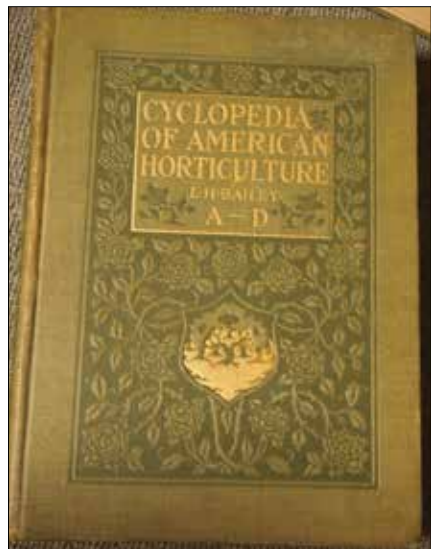
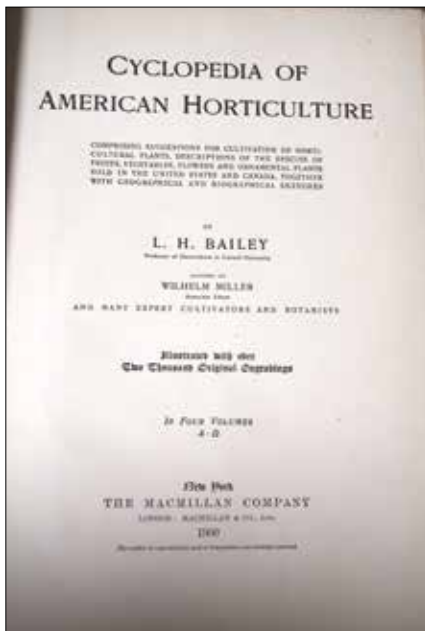


西洋初の総合的園芸辞典として英国で出版された12巻組。椿は30行ほどしか記述されておらず、ブームの終わりかけを示唆する。16品種が掲載され、Hotoke, Nagasaki, Takayama, The Daimyo, The Mikadoなど日本から輸入されたと思われる品種も載る。



# Cyclopedia of American Horticulture (アメリカ園芸百科事典)

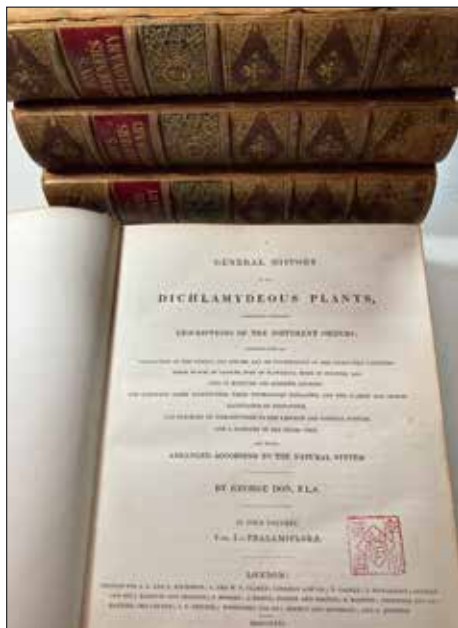
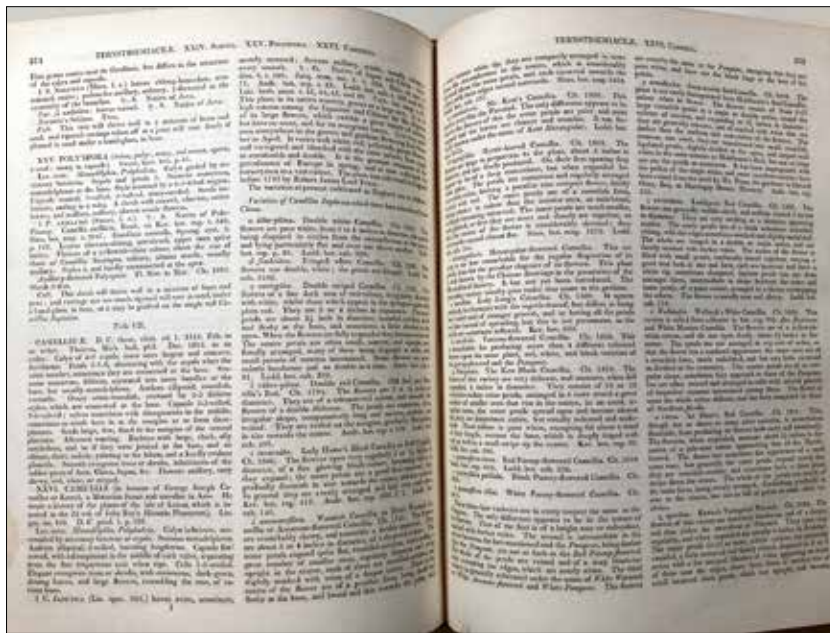
バーリー (L.H. Barley) 1900年 The Macmillan Company 版型：272mm×183mm



大型の4冊組米国の園芸百科事典。米国でも椿ブームの終焉期か、4枚の図版はあるが記載は半ページ少々。チャノキは比較的充実している。この他19世紀の主要な椿図譜が紹介されている。

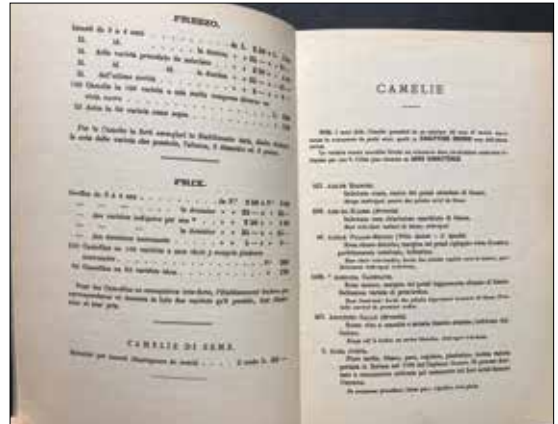
# A General History of the Dichlamydeous Plants: Don's Dictionary of Gardening and Botany (八重咲き植物の概略：ドン園芸植物事典)

ジョージ・ドン (Don,George) 1831-1838年にかけて London で発行。判型：281mm×235mm



Don's Dictionary は通称。8巻組の総合的園芸百科事典、ツバキ線画もたっぷり掲載。

Catalogo delle Camellie prezzo corrente  
(椿カタログ 現在の価格 1882年版)



Mercatelli, Raffaele編1881年Tipografia di M.Ricci (FIRENZE) 発行 版型：166mm×121mm  
わずか40pの小冊子だが、当時の品種ごとの価格がわかる貴重な資料。

Des Genres *Camellia*, *Rhododendron*, *Azalea*, *Acacia*, *Epacris*, *Erica*.  
(ツバキ、シャクナゲ、ツツジ、アカシア、エパクリス属の植物)



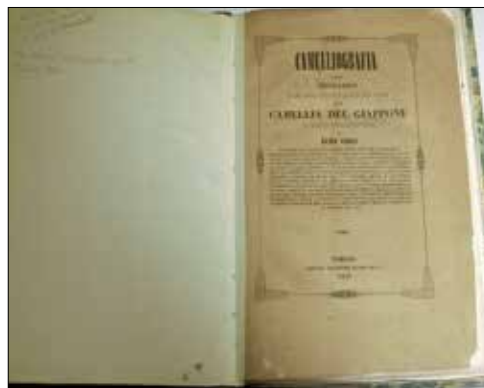
ルメール (Lemaire, Charles A.) 著、1844年Audot (Paris) から出版。183mm×116mm。各属と園芸品種の解説が載る。椿は160品種が掲載されている。

## Delle Camelie (椿について)



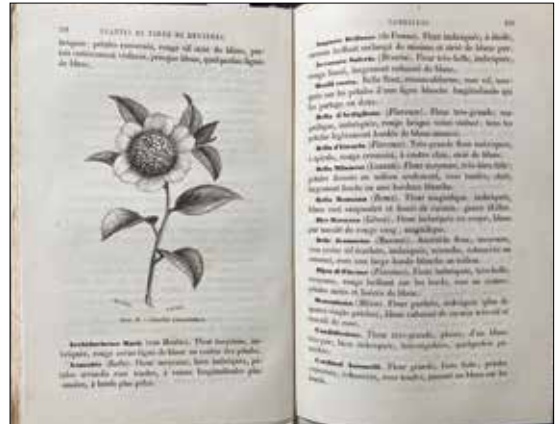
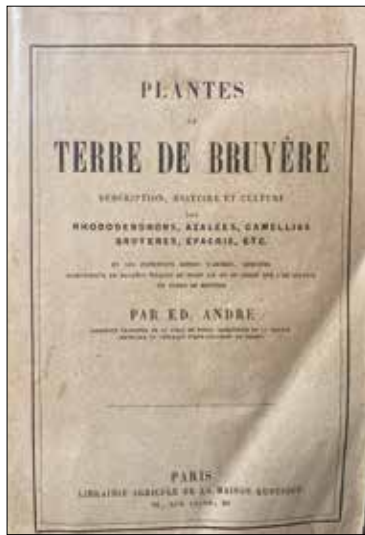
Fratelli Roda 1885年 Unione Tipografico-Editrice (TORINO) より刊行。図版11枚が掲載される。ツバキの販売用カタログである。当時の園芸種流通事情がわかる貴重な資料。

## Camelliographia (椿図解)



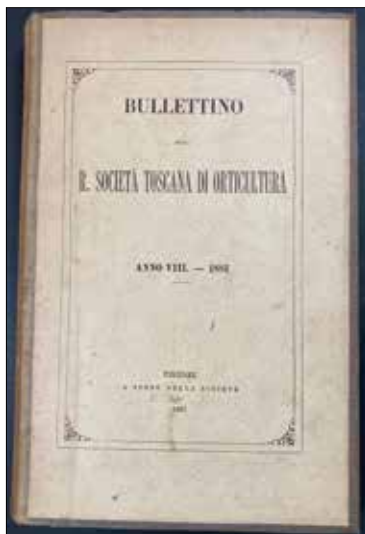
Colla, Luigi 著 1843年 Giuseppe Pomba (TORINO) より刊行 副題に Tentativo Di Una Nuova Disposizione Naturale Della Varietà Della Camellia del Giappone E Loro Descrizione 「日本椿の品種の新しい自然分類の試み」とあるように園芸品種を独自の花型で分類。図版はほぼない。

## Plantes de Terre de Bruyère (ヒースランドの植物)



Ed André 1867年Libr. Agricole de la Maison Rustique (Paris) より刊行。椿だけでなくシャクナゲ類、エリカ類なども扱う園芸書。ヒースランドとは英国などの高原に広がるエリカなどの茂る植生。

## Bullettino della Royal Societa Toscana di Orticula, 8 1883 (トスカーナ王立園芸学会)



椿関連の記事は「フィレンツェのツバキ新品種」と題した上記の図版付き論文のみ。*Camellia Eugenia* 'Parlatore' とある。

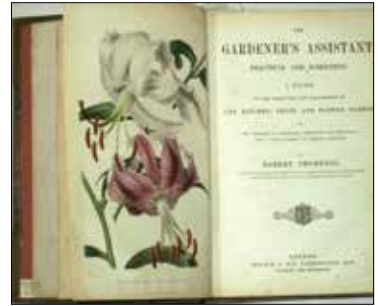
その他19世紀の主要椿関連資料



"A short Treatise on Horticulture"



"Group of single Camellia"



"Gardener's Assistant"

資料名、編著者、出版地、出版年、備考（和訳）の順に示す（一部省略）。

|                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| An account of a new species of a Camellia growing wild at Nepal. Nathaniel Wallich, 1820 Asiatic Research 8: 428-32. (ネパールに自生するツバキ属新種の解説) |
| A short Treatise on Horticulture. William Prince, New York 1828 (園芸学の短報)                                                                  |
| Annual Catalogue of Fruits and ornamental Trees and Flowering Shrubs. Asa Rowe, Rochester, 1841 (果樹および装飾木、花木の年鑑カタログ)                      |
| Gardener's Chronicle. UK, 1879, 図版8枚 (園芸家時報)                                                                                              |
| Group of single Camellias. 1840, 一枚絵 (一重のツバキたち)                                                                                           |
| Collection de Cent Especies ou varieties du genre Camellia. Mile B.Fontain, Bruxelles 1845 (椿百品種のコレクション)                                  |
| Chinese Water colour of a Camellia. 筆者不明 1850年代 (ツバキの中国水彩画)                                                                               |
| Gardener's Assistant Practical and Scientific. Robert Thompson, London 1859 (実用的・科学的な園芸家の手引)                                              |
| Illustrierte Garten-Zeitung. Karl Müller, Stuttgart 1867, 品種 'Constantin Tretiakoff' を含む (図解園芸雑誌)                                         |

20世紀初頭の主要ツバキ関連書籍

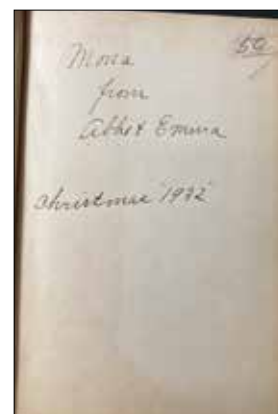
Le Camelie Storia Coltivazione Varietà  
(椿の歴史栽培品種)

A. Del Lungo / G. Girardi 1928 Ulrico Hoepli, Milano 版型：170mm × 115mm



20世紀前半は椿園芸の衰退期であり、出版物が非常に少ない時期の本となる。586品種が掲載され、この時代の新品種は37種も含まれる。『カメリアン』51号に詳しく載る。

Azaleas & Camellias  
(ツツジと椿)



この本はプレゼントだったようで、椿がすっかり家庭園芸になっていることが伺える

H. Harold Hume, 1931年 The Macmillan Co. から出版。190mm × 132mm のハンディな実用書。椿はカラー版画もなく、モノクロの写真が数点、54変種が掲載。記述もツツジのほうが多い。前項同様に衰退期の品種がわかる基調な本。『カメリアン』52号に資料あり。



## 戦後椿ブーム以降の書籍

1955年（昭和30年）アメリカカリフォルニア椿協会の会長を務めていたラルフ・S・ピーア（Ralph S. Peer）氏が、日本の椿協会と連携をとり始めるようになり、日本のツバキを母種としたツバキ園芸が一気に広がりました。たとえば、日本のユキツバキを母種とした数千種に及ぶ膨大な新品種が欧米で開発されています。岸川氏の書籍収集はこうした事情を調べるところから始まりました。同時に、戦後に欧州の古典文献が英語翻訳され出版されたもの、復刻出版されたものを洋書、和書ともに丹念に収集し、ツバキに限らず日本の伝統園芸植物を知る上でのまとまった文献集になりました。

名作が際立つ古典文献の収集に比べ、現代文献は散逸も早く、項目が多岐にわたるため、丹念な情報収集が欠かせません。岸川氏は初期からインターネットを駆使しながら「もう一つの仕事」として内外の文献を真摯に収集していたといいます。古典コレクションに比べ、注目を浴びないかも知れませんが、研究資料としては古典の隙間を埋める復刻本、研究書、現代のツバキ園芸を知るための資料として重要な存在です。

こうした資料は岸川氏が会長をつとめたコーベ・カメラア・ソサエティが発行した「現在日本で咲く洋種椿品種」などに活用され、2013年までに第6版まで増補されながら発行されています。品種の来歴や特徴までを網羅した同書は、栽培家の重要な参考書となっています。

多くは書名のみの掲載となりますが、参考になれば幸いです。



『現在日本で咲く 洋種椿品種』



## 戦後の重要復刻書籍（海外）

| 資料名（翻訳）                                                                                                                             | 編著者（翻訳者）                              | 出版社                                | 出版年（復刻年）     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|--------------|
| Camelia Tricocos 1589,<br>Arbor Indica 1740,<br><i>C.jap.</i> Francofurtensis' Rinz 1834,<br><i>C.jap.</i> Teutonia Grüneberg 1837. | Arthur Haase, G.D.<br>Ehret（ほか）       | Ein Internet-Magazine<br>（復刻文献の特集） | 1589 ~（2000） |
| Flora Japonica*<br>（日本植物誌）                                                                                                          | Carl Peter Thunberg                   | Oriole Editions                    | 1784（1975）   |
| A Monographiy on The Genus Camellia*<br>（ツバキ属のモノグラフィー-英語版）                                                                          | Curtis Samuel<br>（Charles W. Traylen） |                                    | 1819（1965）   |
| Anleitung zur Cultur und Vermehrung der<br>Camellien Traugott<br>（ツバキの栽培と繁殖の手引）                                                     | Jacob Seidel                          | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 1 | 1837（2000）   |
| Vermehrung und Behandlung der <i>Camellia japonica</i><br>（ヤブツバキの繁殖・選抜・取り扱い）                                                        | Fischer Heinrich                      | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 2 | 1836（2000）   |
| Die Kultur der Camellien<br>（ツバキの栽培）                                                                                                | Seidel, Jacob Friedrich.              | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 3 | 1830（2000）   |
| Ueber die Kamellin cultur und deren Fortschritte<br>（ツバキ栽培とその進歩）                                                                    | Traugott Jacob Seidel                 | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 4 | 1848（2000）   |
| Cultur von Camellien<br>（ツバキの栽培）                                                                                                    | J. De Jonghe                          | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 5 | 1856（1997）   |
| Die Modepflanzen unserer zeit Camellia und Cactus<br>（ツバキとサボテンの現代流行品種）                                                              | Wilhelm Neubert                       | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 6 | 1839（2000）   |
| Sertum Botanicum, Collection choisie de Plantes<br>(Camellia)<br>（植物の花束：厳選ツバキ）                                                      | Par M.P.C. van Giel                   | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 7 | 1796（2000）   |
| Camellia Britanica*（英国のカメリア）                                                                                                        | Candler und Buckingham ;              | Libri Selectiv<br>Camelliae Band 8 | 1825（2000）   |

\*はオリジナルも部分的にでも岸川文庫に所蔵していることを示す。



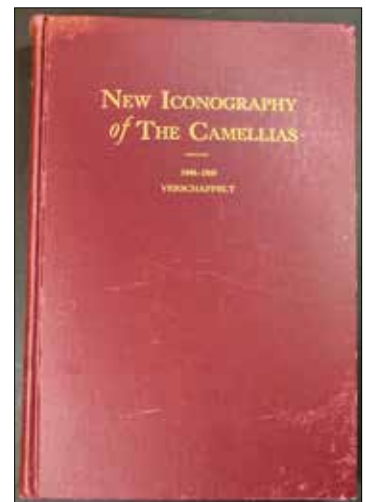
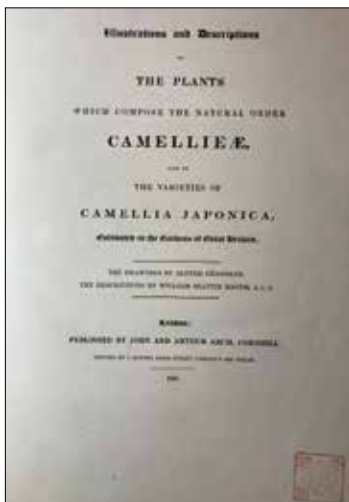
Ein Internet-Magazineの復刻本



Libri Selectivの復刻本

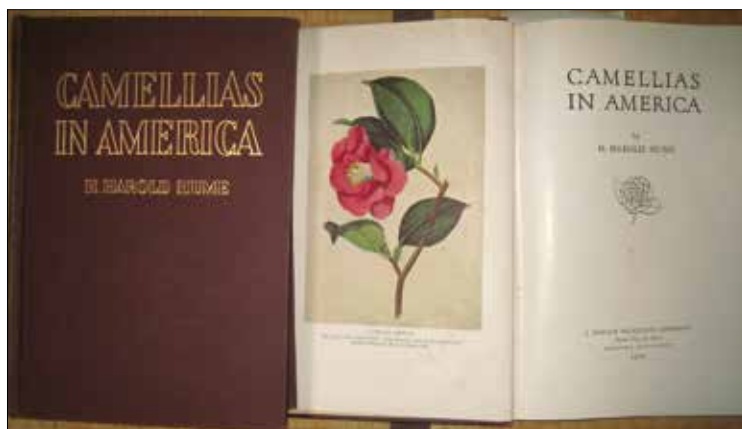
| 資料名 (翻訳)                                                                                                                                                                                                                                    | 編著者 (翻訳者)                                                                     | 出版社                               | 出版年<br>(復刻年)        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------|
| The Camellia<br>(ツバキ属)                                                                                                                                                                                                                      | Tirocco, Giovanni Battista,<br>translated from Italian by<br>Claude Chidamian | The Walden Press, Los<br>Angeles  | 1929 (1949)         |
| Monography of the genus Camellia. 1st Edition*<br>(ツバキ属に関するモノグラフィー)                                                                                                                                                                         | L'Abbe Berles, translated<br>by E.A.McIlhenny                                 | Tuttle, Dennett and<br>Chisholm   | 1819 (1965)         |
| History and Description of the Species of <i>Camellia</i><br>and <i>Thea</i> *<br>(ツバキ属とチャノキ属の種の来歴と記載)                                                                                                                                      | William Beattie Booth                                                         |                                   | 1829 (2010)         |
| Illustrations and Descriptions of the Plants which<br>Compose the Natural Order CAMELLIAE and<br>the varieties of <i>Camellia japonica</i> , Cultivated in the<br>Gardens of Great Britain*<br>(ツバキ科を構成する植物、および英国で栽培され<br>るヤブツバキの品種群の図譜と記載) | ALFRED CHANDLER &<br>WILLIAM BEATTIE<br>BOOTH, A.L.S.                         | JOHN AND ARTHUR<br>ARCH, CORNHILL | 1837 (1944)         |
| New Iconography of the Camellias*<br>(新ツバキ属図譜)                                                                                                                                                                                              | A. Verschaffet, translated<br>by E. A. McIlhenny                              | E.A. McIlhenny                    | 1848-1860<br>(1945) |
| Curtis's Botanical Magazine, Index 1787-1904 (Vol.1-<br>130)*<br>(カーティス植物学雑誌)                                                                                                                                                               | W.B.Hemsley                                                                   | Lovell Reeve & Co.Ltd             | 1906 (1956)         |

\*はオリジナルも部分的にでも岸川文庫に所蔵していることを示す。



## 戦後椿ブーム (1940年代) で発行された専門書 (洋書)

| 資料名 (翻訳)                                                                                                 | 編著者                       | 出版社                            | 出版年        | 備考                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|------------|-----------------------------------------|
| Camellias Ser.1.2<br>(カメリア)                                                                              | G.G. Gerbing              | The Record Press               | 1945, 1950 |                                         |
| Camellias in America<br>1st & Revised.<br>(アメリカのツバキ)                                                     | H.Harold Hume             | J. Horace McFarland<br>Company | 1946, 1955 | 初代アメリカ椿協会<br>(ACS) 会長。日本へ<br>の導入品種理解に重要 |
| Camellia Quest<br>(ツバキ探究)                                                                                | E. G. Waterhouse          | Ure Smith                      | 1947       | 豪華本。Hume 氏旧蔵                            |
| Camellias Illustrated<br>1sted & revised<br>(ツバキ図譜)                                                      | Morrie L. Sharp           | Western Trail Publ.<br>Co.     | 1948, 1958 |                                         |
| Rhododendrons, Azaleas, Magnolias,<br>Camellias & Ornamental Cherries<br>(シャクナゲ、ツツジ、モクレン、ツバ<br>キと園芸用サクラ) | Arthur Tysilio<br>Johnson | My Garden                      | 1948       |                                         |
| The Huntington Botanical Gardens,<br>1905-1949<br>(ハンテントン植物園の歴史)                                         | William Hertrich          | Huntington Library             | 1949       | ツバキの重要品種コ<br>レクションを持つ園<br>の歴史           |



## 1950年代の主要ツバキ専門書（洋書）



| 資料名（翻訳）                                                        | 編著者                           | 出版社                             | 出版年        | 備考                                |
|----------------------------------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------|-----------------------------------|
| Camellia culture for the home gardener<br>(家庭園芸家のためのツバキ栽培法)    | Harry M. Butterfield          | Univ. California                | 1950       |                                   |
| Camellia and Common sense<br>(ツバキ園芸の常識)                        | Claude Chidamian              | Richard                         | 1951       |                                   |
| Camellia Kind and Culture<br>(ツバキの品種と栽培)                       | H. Harold Hume                | Macmillan                       | 1951       |                                   |
| Camellia Trail<br>(ツバキの道)                                      | E. G. Waterhouse              | Ure Smith                       | 1952       | Paul Jones の版画などを含む豪華本。           |
| Camellias in the Huntington Garden, 3 Vols.<br>(ハンチントン植物園のツバキ) | William Hertrich              | Huntington Botanical Gardens    | 1954       | カリフォルニアのハンチントン植物園の700種などが載る。      |
| The Camellia I & II<br>(ツバキ)                                   | Raymond Boothe and Paul Jones | Leslie Urquhart                 | 1956, 1960 | 1997年に亡くなった画家 Paul Jones の絵を用いている |
| A Revision of the Genus Camellia<br>(ツバキ属の分類再考)                | J. Robert Sealy               | Royal Horticultural Society     | 1958       | 著者は Kew 植物園の植物学者。中国植物誌、特に椿が専門。    |
| Camellia Culture<br>(ツバキの栽培)                                   | E.C. Tourje                   | South. California Camellia Soc. | 1958       |                                   |
| Camellias for everyone<br>(みんなのツバキ)                            | Claude Chidamian              | Doubleday                       | 1959       |                                   |

## 1960年代以降の主要ツバキ専門書（洋書）



ポール・ジョーンズのツバキ絵画画集

| 資料名（翻訳）                                                                                                                    | 編著者                            | 出版社                          | 出版年  | 備考      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|------|---------|
| Camellias<br>(ツバキ)                                                                                                         | E. B. Anderson                 | Blandford Press              | 1961 |         |
| You can grow Camellias<br>(あなたにもできるツバキ栽培)                                                                                  | Mary Noble & Blanche<br>Graham | Harper & Row                 | 1962 |         |
| The Camellia Book<br>(ツバキの本)                                                                                               | John L. Threlkeld              | Van Nostrand                 | 1962 |         |
| Camellias for every garden<br>(すべての庭にツバキを)                                                                                 | Geoffrey Robert Wakefield      | Collingridge                 | 1964 |         |
| Camellian<br>(ツバキ愛好家)                                                                                                      | Frank Griffin                  | Vogue Press                  | 1964 |         |
| A portfolio of Camellia paintings<br>(ツバキ絵画画集)                                                                             | Paul Jones                     |                              | 1973 | 700冊限定版 |
| The Camellia Its History, Culture,<br>Genetics and a Look Into Its<br>Future Development<br>(ツバキ：その歴史と栽培、遺伝<br>と将来の発展への展望) | David Feathers                 | American Camellia<br>Society | 1978 |         |

※これらの戦後のツバキ主要文献については岸川氏が『カメラマン』53号に紹介記事を書いている。

## その他のツバキ関連の現代洋書

(ABC順) 書名、著者名、出版社、出版年、ページ数

- A Plantsman's Guide to Camellias, David Trehane, Ward Lock, 1990, 124p  
Anleitung zur Cultur und Vermehrung der Camellien, Traugott Jacob Seidel, Klaus Peper, 1993, 16p  
Antique Camellias of Lake Maggiore, Piero Hillebrand Gianbattista Bertolazzi, Alberti Libraio Editore, 2003, 372p  
Breeding Ornamental Plants, Dorothy J. Callaway & M. Brett Callaway, Timber Press, 2000, 323p  
Camelia GALICIA Pazo de Lourizanなど11品種, Sociedad Espanola de la Camelia, Sociedad Espanola de la Camelia, 1961, 8 p  
Camelie Camellias, Piero Hillebrano Gianbattista Bertolazzi, Alberti Libraio editore, 150p  
Camelie dell'Ottocento in Italia, G. Cattolica A. Lippi, P. E. Tomei  
Camelie dell'Ottocento New Verbano Luisa Ricci, Regione Piemonte, 2000, 261p  
Camellia, W. Neubert, Klaus Peper, 1998, 48p  
Camellia japonica, Heinrich Fischer, K. Peper, 1993, 23p  
Camellia Magic, Julia and Ruth Atkinson, McComb, 1950, 120p  
Camellia Nomenclature, Rudolph Variegated, The Southern California Camellia Society, 2006, 194p  
Camellias, E. B. Anderson, Blandford Press, 1961, 115p  
Camellias, David Trehane, The Royal Horticultural Society, 1980, 40p  
Camellias, Chang Hung Ta & Bruce Bartholomew, B. T. Batsford LTD, 1984, 211p  
Camellias, Jennifer Trehane, B. T. Bastford LTD, 1998, 174p  
Camellias A Curator's Introduction to the Camellia Collection in the Huntington Botanical Gardens, Ann Richardson, Henry E. Huntington Library and Art Gallery, 2001, 80p  
Camellias A Photo Dictionary, Don Ellison, 1997, 159p  
Camellias and Magnolias, P. M. Synge, The Royal Horticultural Society, 1950, 134p  
Camellias for New Zealand Gardens, Jim Rolfe & Yvonne Cave, A Godwit Book, 1992, 141p  
Camellias The Complete Guide, Logan A. Edgar, The Crowood Press, 1991, 224p  
Camellias The Gardener's Encyclopedia, Jennifer Trehane, Timber Press, 2007, 380p  
Camellias The New Plant Library, Andrew Mikolajski, Lorenz Books, 1999, 64p  
Camellia Collection, M. G. Fontaune, Chez A. Mertens, 1845, 151p  
Curtis's Flower Garden Displayed, Tyler Whittle Christopher Cook, Magna Books, 1979, 258p  
De camelia. Een aristocratische roos: De eerste industriële plant van Gent, Luc Dhaeze-Van Ryssel, Rene De Herdt, 2008, 208p  
Descanso Gardens Its History and Camellias, Douglas G. Thompson, Borden Publishing Company, 1962, 64p  
Die Botanische Buchillustration IHRE Geschichte Und Bibliographie BAND 1: Geschichte, Claus Nissen, Maurizio Martino, 1951, 324p  
Die Camellien-Cultur und deren Fortschritte in neuerer Zeit, Traugott Jacob Seidel, Klaus Peper, 1996, 8 p  
Die Kultur Der Camellien, Jacob Friedrich, Klaus Peper, 1996, 5 p  
E. G. Waterhouse of Eryldene, Mary Armati, The Fine Arts Press, 1977, 112p  
Flora: An Illustrated History of The Garden Flower, Brent Elliott, Firefly Books, 2001, 335p  
Flora japonica sistens plantas insularum japonicarum, Carl Peter Thunberg, Oriole Editions, 1975, 418p  
Flowers in Art from East and West, Paul Hulton, Lawrence Smith, British Museum Publications, 1979, 150p  
Galicia the Route of the Camellia, Xunta de Galicia, Xunta de Galicia, 70p  
Gardening with Camellias, Jim Rolfe, Godwit, 1992, 176p  
Great Flower Books 1700-1900, Sacheverell Sitwell and Wilfrid Blunt, The Atlantic Monthly Press, 1990, 189P

Growing Camellias, Neil Treseder & Edward Hyams, NELSON, 1975, 197p

HIGO Camellia, FRANCO GHIRARDI, MARIA PACINI FAZZI, 2000, 168p

HIROSHIGE Birds and Flowers, Alfred H. Marks, George Braziller, 1988, 192p

History and Description of the Species of Camellia and Thea, William Beattie Booth, Transactions of the Horticultural Society of London, 1829, 44p

History of European Botanical Discoveries in China BAND 1, E. Bretschneider, M. D., Press of the Imperial Russian Academy of Sciences, 1981, 624p

History of European Botanical Discoveries in China BAND 2, E. Bretschneider, M. D., Press of the Imperial Russian Academy of Sciences, 1981, 1167p

International Camellia Congress 2014 PONTEVEDRA-SPAIN 24p

ICS 2014 BOOK of ABSTRACTS, Deputacion de Pontevedra, 2014, 118p

I Mostra da Camelia, Sonia Diaz Canosa, Naron, 2006, 99p

Il giardino delle Camelie, Mario Schiavone, Edizioni Rovello, 1981, 17p

La Camelia en la Coleccion de la Diputacion de Pontevedra, Carmeu Salinero Corral, Pilar Vela Feruaudez, Deputación Provincial de Pontevedra, 2004, 297p

Las Rias Baixas : El Jardin de las Camelias, Ven y déjate llevar, Turismo Rias Baixas, 31p

LE Camelie, A. del Lungo, G. Girardi, Ulricohoepli, 1928, 183p

Les camélias, Jean Laborey, La Maison Rustique - Flammarion, 1986, 238p

Louis Benoit Van Houtte De Gentse tuinbouwprins uit de 19de eeuw, Luc Dhaeze-Van Ryssel, Rene De Herdt, Ronald Viane, VIATvzw, 2010, 159p

Notiziario 2011, Societa Italiana della Camelia, Societa Italiana della Camelia, Societa Italiana della Camelia, 2011, 76p

Notiziario 2014, Societa Italiana della Camelia, Societa Italiana della Camelia, Societa Italiana della Camelia, 2014, 80p

Old Camellia Varieties, A.L. Ellis, The Royal Horticultural Society, 374p

Plagas y Enfermedades del Castano en Galicia, J.P. Mansilla Vazquez, Rosa Perez Otero, Cristina Pintos Varela, Carmen Salinero Corral, Cesar Iglesias Vazquez, Xunta de Galicia, 2000, 129p

Plagas, Enfermedades y Fisiopatias de la Camelia, Pedro Mansilla Vazquez, Carmen Salinero Corral, Rosa Perez Otero, Cristina Pintos Varela, Xunta de Galicia, Xunta de Galicia, 107p

Plants, Jim Harter, Dover Publications, 1998, 374p

Plants and Flowers 1,761 Illustrations for Artists and Designers, E. Bessette William K. Chapman, Dover Publications, 1992, 289p

Rwdoute's Fairest Flowers, William T. Stearn, The Herbert Press, 1987, 312p

Redoute's Flowers, Jill, Duchess of Hamilton, Cassell & Co, 2001, 96p

Sertum Botanicum, Van Geel, Klaus Peper, 1999, 46p

The Camellia, Peter Longhurst, Bay Books, 1982, 158p

THE Camellia Book, John Threlkeld, D. Van Nostrand Company, INC., 1962, 204p

The Camellia Story, Tom Durrant, Heinemann, 1982, 159p

The Colour dictionary of Camellias, Stirling Macoboy, Lansdowne Press, 1981, 208p

The Colourful World of Camellias, A.G.W. Simpson, Tiger Books International, 1978, 103p

The Englishwoman's Garden, Alvide Lees-Milne Rosemary Verey, Chatto & Windus, 1980, 156p

The Flowering of KEW, Richard Mabey, Century, 1988, 208p

The Garden Plants of China, Peter Valder, Florilegium, 1999, 400p

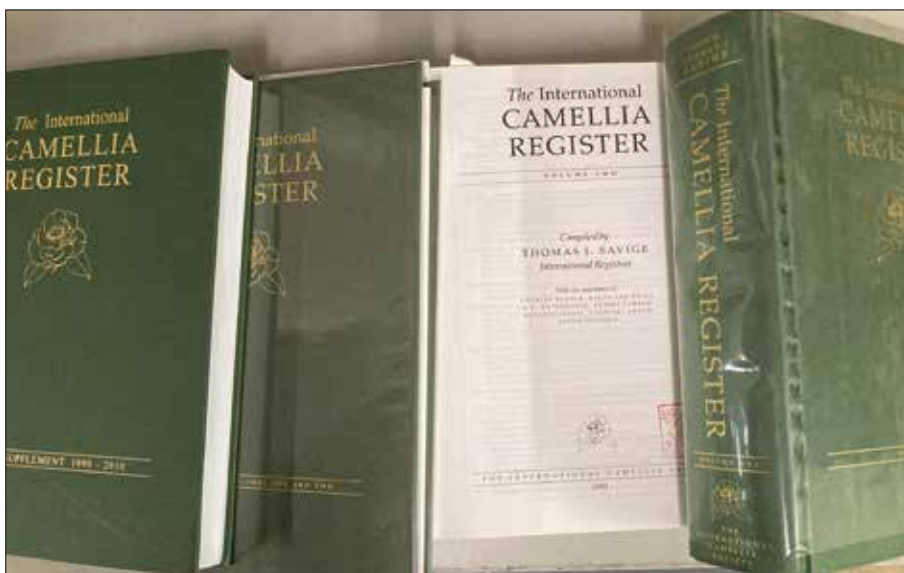
The Huntington Botanical Gardens, William Hertrich, The Huntington Library, 1949, 167p

THE Illustrated Encyclopedia of Camellias, Stirling Macoboy, Timber Press, 1998, 304p

The International Camellia Register Volume One, Thomas J. Savige, The International Camellia Society, 1993, 1104p

The International Camellia Register Volume Two, T. Thomas J. Savige, The International Camellia Society, 1993, 2209p

The International Camellia Register: Supplement to Volume One and Two, Thomas J. Savige, The International Camellia Society, 1997, 386p  
The International Camellia Register: Second Supplement 1990-2010, Neville Haydon, The Minster Press, 2011, 472p  
The Simple Guide to Growing Camellias, James Young, 4 cPublishers, 2005, 128p  
West London Nursery Gardens, E. J. Willson, Morgan Print Limited, 1982, 131p  
Yunnan Camellias of China, The Kunming Institute of Botany, Academia Sinica, Science Press, 1986, 169p



ツバキの新品種を登録する国際ツバキ協会の『カメリア・レジスター』正・続・補遺1・補遺2



## ツバキ関連現代和書

洋書に比べ、岸川椿蔵書に収集された和書は、かなり広範囲の主題の書物を含んでいます。ツバキ園芸の専門書だけでなく、江戸の園芸風俗を理解するための本、古典文献の参考書、博物館など展示会の図録、古書の出品目録など多様な内容です。これらは岸川氏の研究の背景を知る材料となるだけでなく、今後、ツバキ園芸を始めとする人と植物の関わりを学ぶ上でも参考資料となることから、博物館として保管し、活用させていただくことにしました。

### この他の現代和書

(あいうえお順) 書名、著者名、出版社、出版年、ページ数

- ABAJ(日本古書籍商協会) 創立30周年記念「日本の古書・世界の古書」展 目録, ABAJ(日本古書籍商協会), ABAJ(日本古書籍商協会), 1995, 223p
- 石井勇義ツバキ\*サザンカ図譜, 津山尚、図: 山田壽雄, 誠文堂新光社, 1979, 210p
- いのくち椿館 原種ツバキ図鑑, 桐野秋豊監修 いのくち椿館, いのくち椿館, 2013, 114p
- 伊予つばき, 伊予つばき協会, 伊予つばき協会, 2014, 173p
- 色分け花図鑑 椿, 桐野秋豊, 学研研究社, 2005, 192p
- ウイリアム・カーティス花図譜 {カーティス・ボタニカル・マガジン}ベスト・セレクション, マーティン・リックス序文 高林成年監修, 同朋舎出版, 1994, 287p
- 植木の里, 川添登 菊池勇夫, ドメス出版, 1986, 208p
- 云南のツバキ, 中国云南人民出版社, 日本放送出版協会, 1981, 207p
- 永平寺 傘松閣天井繪, 永平寺祖山傘松会, 大本山永平寺, 1996, 260p
- 英国王立園芸協会(RHS)創立200周年記念 500年の大系
- 江戸期のナチュラリスト, 木村陽二郎, 朝日新聞社, 1988, 249p
- 江戸事情: 第一巻 生活編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1991, 271p
- 江戸事情: 第二巻 産業編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1992, 247p
- 江戸事情: 第三巻 政治社会編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1992, 255p
- 江戸事情: 第四巻 文化編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1992, 263p
- 江戸事情: 第五巻 建築編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1993, 255p
- 江戸事情: 第六巻 服飾編, NHK データ情報部, 雄山閣出版, 1994, 250p
- 江戸時代の自然, 青木宏一郎, 都市文化社, 1999, 229p
- 江戸と北京, ロバート・フォーチュン, 廣川書店, 1969, 365p
- 江戸のガーデニング, 青木宏一郎, 平凡社, 1999, 118p
- 江戸の園芸 自然と行楽文化, 青木宏一郎, 筑摩書房, 1998, 206p
- 江戸の道楽, 棚橋正博, 講談社, 1999, 238p
- 絵本野野草, 橋保国, 八坂書房, 1982, 275p
- 園芸と文化, 田中孝幸, 熊本日日新聞社, 2012, 183p
- 園芸入門 魅力の花木 つばき, 萩屋薫, 主婦の友社, 1974, 209p
- 開館二〇周年記念特別展「花開く江戸の園芸」, 東京都江戸東京博物館, 東京都江戸東京博物館, 2013, 286p
- 花芸365日, 安達瞳子, 小学館, 1994, 176p
- 画集 椿, 二口善雄, 八坂書房, 1992, 132p
- 花壇地錦抄, 伊藤伊兵衛, 農山漁村文化協会, 1995, 340p\*
- 狩野探幽 草木花写生, 中村溪男 北村四郎, 紫紅社, 1977, 247p
- 花鳥風月 第7巻, 植崎宗重, 講談社, 1964, 144p
- 川原慶賀展, 西武美術館, 日本経済新聞社, 西武美術館, 1980, 97p
- 京椿, 水野克比古, 京都書院, 1991, 107p
- 京都 京の名椿百図 花の散歩みち, 山と溪谷社, 山と溪谷社, 2001, 161p
- 金花茶彩色図集, 広西壮族自治区環境保護局, 広西植物研究所, 広西科学技術出版社, 1992, 53p
- キンカチャの雑種第一代, 吉川和男, 西武舞鶴植物

- 研究所, 1992, 9p
- 訓蒙圖彙, 解説者杉本つとむ, 早稲田大学出版部, 1975, 318p
- 原色 中部のツバキ, 佐藤稔, 誠文堂新光社, 1975, 191p
- 原色日本の椿写真集 千椿集, ガーデンライフ, 誠文堂新光社, 1980, 269p
- 現代椿集, 日本ツバキ協会, 講談社, 1972, 488p
- 現代椿集2, 日本ツバキ協会, 講談社, 1978, 456p
- 現代椿名鑑, 横山三郎, 文化出版局, 1975, 309p
- 古今要覧稿・第4巻, 屋代弘賢, 原書房, 1982, 726p
- 古事類苑 植物部一, 吉川弘文館, 吉川弘文館, 1971, 1208p
- 古事類苑 植物部二 金石部, 吉川弘文館, 吉川弘文館, 1971, 930+380p
- 古典籍下見展観大入札会目録 平成九年十一月, 東京古典会主催, 東京古典会, 1997, 528p
- 古典籍下見展観大入札会目録 平成三年十一月, 東京古典会主催, 東京古典会, 1991, 501p
- 古典籍下見展観大入札会目録 平成七年十一月, 東京古典会主催, 東京古典会, 1995, 465p
- 最新園芸教室 ツバキ, 桐野秋豊, 誠文堂新光社, 1995, 151p
- 山茶属植物主要原種彩色図集, Cao Jiyin, Clifford R. Parks, Du Yueqiang, 浙江科学技术出版社, 2005, 302p
- 四季草花譜 飯沼慾齋「草木図説選」, 木村陽二郎解説者, 八坂書房, 1988, 164p
- シーボルトと日本の植物 東西文化交流の源泉, 木村陽二郎, 恒和出版, 1981, 235p
- シーボルトと鳴滝塾, 久米康生, 木耳社, 1989, 244p
- シーボルト旧蔵・日本植物図譜展, 大場秀章 監修, アート・ライフ, 1995, 77p
- 写真で見るユキツバキの一生, 石沢進監修, 長野県下水内郡栄村教育委員会, 2003, 64p
- 植物学と植物画, 大場秀章, 八坂書房, 2003, 298p
- 植物図譜の歴史 芸術と科学の出会い, ウィルフリッド・ブランド, 森村謙一訳, 八坂書房, 1986, 344+13p
- 植物画世界の至宝展, 東京芸術大学大学美術館(熊澤弘 薩摩雅登) 英国王立園芸協会日本支部(賀来宏和 栗本義之 鈴木邦彦), 「植物画世界の至宝展」実行委員会, 2005, 223p
- 初春の花ー日本画名作展, 細野正信, 松浦あき子, 読売新聞社, 1995, 84p
- 新興古書大即売展略目, 1992, 56p
- 図鑑の博物誌, 荒俣宏, リプロポート, 1984, 308p
- 図説 江戸図屏風をよむ, 小澤弘 丸山伸彦, 河出書房新社, 1993, 103p
- 図版 椿に魅せられて 生木の椿・文芸の椿・うましうるわし大和, 塚本周作, リーチアート, 2010, 100p
- 図録 成巽閣, 成巽閣, 成巽閣, 1991, 53p
- 生誕二百年記念 伊藤圭介の生涯とその業績 西武舞鶴植物研究所報告第7号別刷
- 世界山茶属的研究 下巻, 関天禄, 云南科技出版社, 2000, 172p
- 世界山茶属的研究 上巻, 関天禄, 云南科学出版社, 2000, 180p
- 世界名貴茶花, 高継銀 除紹云 除碧玉, 浙江科学技术出版社, 1998, 199
- 千總コレクション 京の優雅〜小袖と屏風〜, 京都文化博物館 学芸課, 京都文化博物館, 2005, 254p
- 草本性譜・有毒草木図説, 清原重巨 遠藤正治解説, 八坂書房, 1989, 279p
- ツバキ, 桐野秋豊, 家の光協会, 2000, 143p
- ツバキ12ヵ月, 桐野秋豊, 主婦の友社, 1983, 155p
- ツバキとサザンカ その魅力と栽培, ガーデンライフ, 誠文堂新光社, 1975, 199p
- ツバキ属の改定 翻訳版, J.ROBERT SEALY, 日本ツバキ協会, 2005, 335p
- つばき入門ー歴史と栽培12ヵ月ー, 安藤芳顕, 保育社, 1974, 151p
- 椿, 日本ツバキ協会, 毎日新聞社, 1971, 180p
- 椿, 里見盈吉, 泰文館, 1966, 208p
- 椿, 木村智 榎野尚一(写真), 京都書院, 1997, 318p
- 椿絵名品展, 細野正信監修, 読売新聞社, 奈良そごう美術館, 千葉そごう美術館, 湯河原ゆかりの美術館, 2000, 101p
- ツバキ・サザンカ, 中村恒雄, 日本放送出版協会, 1975, 144p
- ツバキ・サザンカ, 桐野秋豊, 箱田直紀, NHK出版, 2001, 127p
- ツバキ／サザンカ, 中村恒雄, 仲村訥郎, 清水昇, 家の光協会, 1976, 185p
- 椿 その観賞と生花, 安達潮花, 高陽書院, 1960, 278p
- 椿 花と文化, 京都園芸倶楽部, 誠文堂新光社, 1969, 396p
- 椿しらべ, 安達瞳子, 講談社, 1999, 242p
- 椿春秋, 三浦伊八郎, 地球出版株式会社, 1965, 297p
- 椿づくし, 講談社, 講談社, 2005, 208p
- 椿づくり 品種銘鑑と栽培のすべて, 桐野秋豊, ひかりのくに, 1980, 326p
- 椿に魅せられて 生木の椿・文芸の椿・うましうるわし大和, 塚本周作, リーチアート, 2012, 408p

- つばき 名花の紹介と栽培, 安藤芳顕, 保育社, 1971, 229p
- 第100回記念 古書籍大即売会<出品目録抄>, ?, ?, 1992, 121p
- 第二十九回近鉄阿倍野 古書まつり 出品目録, 近鉄阿倍野, 近鉄阿倍野, 1992, 82p
- ドイツ人の見た元禄時代 ケンペル展, ドイツ-日本研究所 サントリー美術館 横浜開港資料館 特別展 「パンクス植物図譜」 -キャプテン・クック 世界一周探検航海の成果-, 千葉県立中央博物館, 千葉県立中央博物館友の会, 1991, 71p
- 長崎県立美術博物館, ドイツ-日本研究所 サントリー美術館 横浜開港資料館
- 長崎県立美術博物館, 1990, 165p
- 名古屋市東山植物園伊藤圭介記念室の蔵書・藏品, 名古屋市東山植物園, 名古屋市東山植物園, 2003, 131p
- 浪速叢書 第二 摂陽奇観 (二), 船越政一郎, 株式会社名著出版, 1977, 537p
- 日本・オランダ修好380年記念 シーボルトと日本, 京都国立博物館, 東京国立博物館, 朝日新聞社, 朝日新聞社, 1988, 217p
- 日本ツバキ・サザンカ名鑑, 日本ツバキ協会, 誠文堂新光社, 1998, 359p
- 日本のツバキ ふるさとと品種, 桐野秋豊, 主婦の友社, 1976, 239p
- 日本の椿, 津山尚, 廣川書店, 1968, 216p + Plate49p + 67p + 付録36p
- 日本の椿花, 横山三郎, 桐野秋豊, 淡交社, 1989, 420 + 18p
- 日本の美術 53 元信 永徳 探幽, 武田恒夫, 小学館, 1979, 209p
- 日本人の心の花「つばき」椿絵名品展, 細野正信監修, 岩手日報社, 1995, 105p
- 日本椿集, 文: 津山尚, 画: 二口善雄, 平凡社, 1966, 468p
- 日本博物学史, 上野益三, 平凡社, 1973, 680+73p
- 日本博物学年表 (初版), 白井光太郎, 科学書院, 1982, 190+22+32p
- 日本美術全集 第15巻 永徳と障屏画 桃山の絵画・工芸II, 辻惟雄, 河野元昭, 矢部良明, 講談社, 1991, 239p
- 人気品種と育て方 ツバキ、サザンカ, 日本ツバキ協会, NHK 出版, 2000, 175p
- 農業全書, 土屋喬雄 校訂, 岩波書店, 1977, 376p
- 博物学史散歩, 上野益三, 八坂書房, 1978, 276+9p
- 橋爪博幸 原田健一 松居竜五 安田忠典, (財) 南方熊楠記念館, 1998, 63p
- 花と木の文化 椿, 渡辺武, 安藤芳顕 塚本洋太郎 監修, 家の光協会, 1980, 282p
- 花の王国: 第4巻 珍奇植物, 荒俣宏, 平凡社, 1990, 159p
- 花の西洋史 花木篇, A.M. コーツ, 八坂書房, 1991, 238p
- 花の文化史, ピーター・コーツ 阿部薫訳, 八坂書房, 1978, 215+7p
- 花の旅「ツバキ」ガイド25コース, 推薦 安達瞳子、監修 桐野秋豊, 北隆館, 1996, 87p
- 美花図譜 ウェインマン「植物図集選」, 木村陽二郎 解説, 八坂書房, 1991, 131p
- 肥後椿, 平塚泰蔵, 誠文堂新光社, 1964, 138+14p
- 肥後銘花集, 肥後銘花保存会, 誠文堂新光社, 1976, 190p
- 百椿図, 根津美術館学芸部, 根津美術館, 2012, 72p
- 日向市立図書館所蔵 渡邊式コレクション図録, 日向市立図書館, 日向市立図書館, 1995, 70+22p
- 平山屏風, ?, ?, ?, 33p
- ふくべ書房 自然誌関係書目録 2003年春季号, ふくべ書房, ふくべ書房, 2003, 351p
- プラント・ハンター物語 植物を世界に求めて, T. ホイットル, 白幡洋三郎・白幡節子訳, 八坂書房, 1983, 217p
- プロが教える園芸秘伝 江戸の園芸平成のガーデニング, 小笠原亮, 小学館, 1999, 240p
- 平成六年明治古典会七夕大入礼会目録, 明治古典会, 明治古典会, 1994, 319p
- 別冊家庭画報 この花のすべて 茶花暦シリーズ一椿, 土屋衛, 世界文化社, 1984, 151p
- ボタニカル・アート, リース・ド・プレイ, MPC, 1990, 191p
- ボタニカル・アート, ノーマン&イヴ・ロブソン, 千稔社, 1991, 44p
- ボタニカルアートの世界 植物画の楽しみ, 朝日新聞社, 朝日新聞社, 1987, 155p
- ボタニカルワールドへのいざない
- 本草写生図譜 ①花卉・薬草I, 山本溪愚, 美乃美, 1981, 112p
- 本草写生図譜 ②花卉・薬草II, 山本溪愚, 美乃美, 1981, 106p
- 本草図説: 植物, 荒俣宏監修, 株式会社リポート, 1988, 117p
- 本草図説: 水産, 荒俣宏監修, 株式会社リポート, 1988, 114p
- 本草図説: 動物, 荒俣宏監修, 株式会社リポート, 1989, 119p
- 本草図譜総合解説: 第四巻, 北村四郎, 塚本洋太郎, 木島正夫, 同朋社出版, 1991, 2169+104p

- 「牧野富太郎と植物画展」図録, 高知県立牧野植物園, 毎日新聞社, 2001, 213p
- 牧野富太郎植物画集, 高知県立牧野植物園, 株式会社アム・プロモーション, 1999, 64p
- 見事な花を楽しむ 椿の育て方, 長田鋭明 樽本清, ひかりのくに, 1976, 96p
- 南方熊楠記念館蔵品目録 資料・蔵書編, 板倉照平 稲葉尚美 金山正子 川島昭夫 小峯和明 武内善信 千本英史
- 明治古典会平成十二年七夕古書大入礼会目録, 明治古典会, 明治古典会, 2000, 342p
- 桃山の巨匠 永徳 等伯 友松展, 徳川美術館, 徳川美術館, 1972, 69p
- 薬園図纂 草木奇品家雅見, 青木國夫、飯田賢一、石山洋、大矢真一、菊池俊彦、樋口秀雄, 恒和出版, 1979, 336 + 17p
- 優 雅 Yuuga, James J.White,Lugene B.Bruno, Carnegie Mellon University, 2006, 60p
- 洋学史辞典, 日蘭学会, 雄松堂出版, 1984, 787 + 82 + 35p
- 洋種椿銘鑑, 樽本清, 文化出版局, 1976, 205p
- ロックフェラー浮世絵コレクション展 甦える美・花と鳥と, 小林忠監修、定村忠士, プンユース社, 1990, 155p
- 私の花美術館, 塚本洋太郎, 朝日新聞社, 1985, 296p



収集品には展覧会図録も多い。

## 椿研究会・同好会・学会の会報

岸川慎一郎氏は2003年から2012年までコーベ・カメラリア・ソサエティの会長を勤められました。洋種ツバキを中心とする伝統的な椿愛好会です。栽培技術・品種知識を継承し、ツバキを通じて交流をする、歴史の長い愛好会はまた、横浜つばき同好会、名古屋椿協会などと友好関係にありました。

また日本ツバキ協会会員としても「古文書に見る日本のツバキ文化史」を1999年宮崎国際ツバキ会議・日本ツバキ協会創立四十五周年記念誌として共同執筆・発行するなど、活躍をされます。復刻本は国内のみならず、海外からも注目を受け、2010年国際ツバキ会議などを通じて海外との交流もすすみます。18冊の文献復刻の功績が認められ、岸川氏はInternational Camellia Societyから最初の会長表彰（ICS President Award）を2010年に受けています。2013年のInternational Camellia Journal (No.45) には岸川氏の人物紹介がインタビューとともに3ページに渡り紹介されるなど、日本のツバキ園芸界の国際交流の要ともなっていました。

国際ツバキ会議は1980年京都、1990年舞鶴、1999年宮崎、2010年久留米と開催され、2020年には長崎県五島市での開催が予定されていました。残念ながら五島大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となってしまいました。こうした国際交流の背景には岸川氏を始めとする日本のツバキ園芸関係者の内外での分厚い交流があります。その成果として岸川氏の蔵書には内外のツバキ同好会の会誌がアーカイブされており、岸川氏自身の活動とともに20世紀後半から21世紀初頭の園芸史を物語っているのです。



岸川家で保管されていた状況

|                                                                      |                                                    |                 |                    |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------|--------------------|
| Camellia AnnualNo.1-7, Camellia News                                 | Australian & New Zealand Camellia Research Society | 1954-1962       | 109 冊              |
| Camellia Journal (Camellia Quartely)<br>Vol.4; No.3 ~ Vol. 41; No. 4 | American Camellia Society                          | 1949-1986       | 148 冊              |
| Camellia Revue                                                       | South California Camellia Society                  | 1946-1990       | 63 冊               |
| ICS Year Books                                                       | 国際ツバキ会議                                            | 1964-2013       | 38 冊               |
| New Zealand Camellia Bulletin                                        | New Zealand Camellia Society                       | 1961, 1987-1990 | 19 冊               |
| Notiziario                                                           | Sociata Italiana della Camelia                     | 2011-2014       |                    |
| R. H. S. Yearbook                                                    | 王立園芸協会 (イギリス)                                      | 1949-1971       | 22 冊               |
| THE RHODODENDRON AND<br>CAMELLIA YEAR BOOK                           | 王立園芸協会 (イギリス)                                      | 1946-1970       |                    |
| カメリアン                                                                | コーベ・カメリア・ソサエティ                                     | 1979-           |                    |
| Camelia                                                              | スペイン椿協会                                            | 2003-2014       | 14 冊<br>(欠落あり)     |
| 名古屋椿協会 会誌                                                            | 名古屋椿協会                                             | 1976-           | 9 号 -47 号          |
| 日本ツバキ協会：「Japan Camellia」                                             | 日本ツバキ協会                                            | 1981-2014       | 1-102, 2 号 の<br>み欠 |
| 日本ツバキ協会：「椿」(年刊誌)                                                     | 日本ツバキ協会                                            | 1961-2014       | 1 号から全て            |
| 横浜つばき同好会・会誌「椿」                                                       | 横浜つばき同好会                                           | 1973            | 11 冊               |

## ～～～～ 岸川氏が復刻した文献・資料 ～～～～

古典文献は研究者でも身近にすぐに見られるものではなく、また、2000年代はじめはインターネットでも現在ほど様々な文献を見つけることができませんでした。

岸川氏は数多くの文献を調べ、渡邊光夫氏らとともに復刻しコーベ・カメリア・ソサエティなどを通じて頒布して来ました。

花壇綱目（水野元勝）・草花諸木花名録 椿版・椿名寄色付（宇左衛門）・椿品類銘寄七色附（鶴田）  
復刻版", 渡邊光夫 岸川慎一郎,

椿花図譜百種・小色紙椿絵・椿花譜・絵巻・椿花貼合屏風 復刻版, 渡邊光夫 岸川慎一郎

梅園海石榴花譜 毛利元壽梅園 復刻本, 渡邊光夫 岸川慎一郎

百椿集 加賀文庫 紹介本, 渡邊光夫 岸川慎一郎

椿之目録 百種椿之記 復刻本, 渡邊光夫 岸川慎一郎

古今要覧稿 つばき園一～四 復刻本, 岸川慎一郎

草木奇品家雅見 草木錦葉集 椿版復刻本, 岸川慎一郎

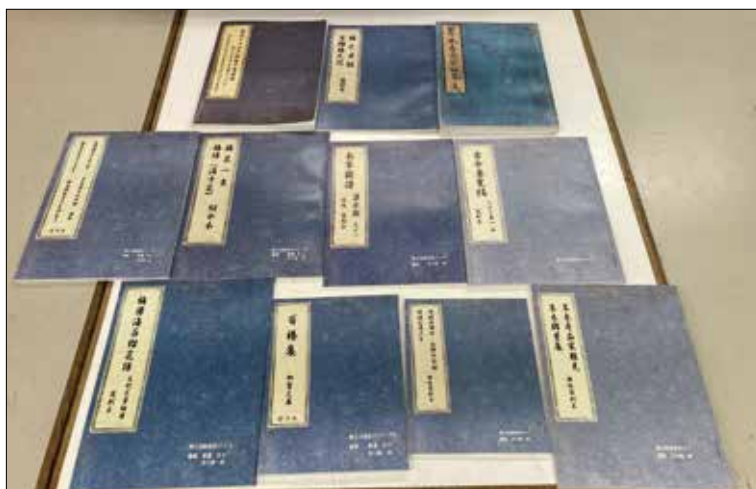
草木奇品家雅見 天地人 復刻本 , 岸川慎一郎

増補地錦抄・地錦抄附録・増補花壇大全 椿版復刻本, 岸川慎一郎

椿花一束 椿譜（酒中花） 紹介本, 渡邊光夫 岸川慎一郎

これらの集大成として、

「現存する江戸期椿の古図譜（現代の写真と古図譜との対比）」岸川慎一郎・桐野秋豊（写真提供）、「椿古文献年代史：岸川椿蔵書目録」（個人出版）を出版しています。



岸川氏は古典洋書も "Kishikawa Camellia-book Collection" として以下の一連の書籍を復刻していました。

"Iconograohie du Genere Camellia Tome I~III ", M.J.-J.Jung, 1841-1843 (31p)

"Nouvelle Iconographie Des Camellias TOME I~VII 1848-1859", Alexandre Verschaffelt, 1848-1860 (32p)

"Illustrations and descriptions of the plants which compose the natural order Camellieae, and of the varieties of Camellia japonica, cultivated in the gardens of Great Britain", William Beattie Booth, 1831 (33p)

"Annales de la Societe Royale d'Agriculture et Botanique de Gand.Vol.1~ 5 Camellia's Extracts", Charles Morren, 1845-1849 (37p)

"Bollrveilerer Camellien Sammlung", Carl Baumann, 1835 (38p)

"L'illustration Horticole Vol.1~43 (1854~96) Extracts of Camellia's Plates", C.H.Lemaire, 1854-96 (49p)

このシリーズに銘打たれていませんが以下の2冊も復刻しています。

"Illustrations and descriptions of the plants which compose the natural order Camellieae, and of the varieties of Camellia japonica, cultivated in the gardens of Great Britain Vol.2 Part 1 ", William Beattie Booth, 1837 (34p)

"Camellia Britannica", Chandler and Buckingham, 1825 (35p)

この他以下の2冊も発行しています。

"18~19 Century's CAMELLIA PLATES", ed. Shin'ichiro Kishikawa, 2005

"19 Century Camellia Date-base", Shinichiro Kishikawa, Seikichi Suzuki, 2010





## あとがき

2020年3月、本来であれば長崎県五島市において国際ツバキ会議2020 Gotoが開催され、そのポストコンGRESS・エクスカージョンとして国内外の多くの椿愛好家の方に『岸川椿蔵書』をご覧頂く予定でした。しかし、折り悪くCOVID-19新型コロナウイルスの感染拡大によって、博物館は臨時休館となり、さらには来日が難しくなったために国際ツバキ会議も中止となってしまいました。博物館の展示は開催されないまま会期末を迎え、やむを得ず、YouTubeで作品紹介をしたのみで片付けざるを得ませんでした。

そして、そのさなか、岸川先生も2020年3月末にご逝去をされました。人々の往来も難しい中、弔問も叶わず、まもなく一年を迎えます。本書は、開催されなかった展示を形にすること、岸川先生から大阪市立自然史博物館に託されたコレクションの全容を示すことを目的に編纂いたしました。コレクションの図版の写真や品種名を網羅的に扱うことは、難しいと判断し、資料の概要を示すものとしました。こうした高い資料性のある出版物としては2008年に岸川先生自身が出された『椿古文献年代史』をこえるものとはできないと考えたこと、繰り返される緊急事態の中、十分な撮影の時間をとることもできなかったことともに、私の力不足が原因です。博物館として、将来この資料を活用する研究者のために、また本書があらたに園芸史研究に興味を持つ方の手がかりになることを願い、また私自身も岸川椿蔵書を今後さらに検討・活用することを書きそえて、本稿を閉じさせていただきます。

## 謝辞

本書を編纂するに当たり、伝統園芸研究会田中孝幸氏（東海大学農学部 教授）、コーベ・カメラ・ソサイエティの西村舜子氏、森田章介氏にはコレクションの内容検討の段階からご示唆をいただきました。また田中氏には資料を撮影した画像も提供いただきました。また、岸川耀子さまを始め、岸川家の皆様には寄贈の段階から、そして本書についてはご遺影の提供までお世話になりました。改めて感謝いたします。

大阪市立自然史博物館 収蔵資料目録 第52集

### 岸川椿蔵書目録

2021年（令和3年）3月31日発行

編・著 佐久間大輔

印刷 株式会社 春日

発行 大阪市立自然史博物館  
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

---

**Special Publications**  
**from the Osaka Museum of Natural History**  
**Volume 52 March, 2021**

---

**A list of Dr. Shin-ichiro Kishikawa's**  
**"Kishikawa Camellia Book Collection"**

by

Daisuke SAKUMA

Osaka Museum of Natural History  
Nagai Park, Higashi-sumiyoshi, Osaka 546-0034, JAPAN